

平成22年度  
事業報告書

川崎市総合教育センター

## はじめに

平成 22 年度は、川崎の教育の基本的な考え方と方向性を示した「かわさき教育プラン」の「第 3 期実行計画」3 年目にあたります。具体的には、「共に生き、共に育つ環境を創り、心を育む」「地域の中の学校を創る」「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」「個性が輝く学校を創る」「安全・安心で快適な教育環境を創る」「共に学び、楽しみ、活動する生涯学習社会を創る」の 6 項目の重点施策が示されています。

また、平成 20 年 3 月に教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成するという基本的な考え方のもとに新しい学習指導要領が改訂告示されたことを受けて、小学校は 23 年度から、中学校は 24 年度からの全面実施に向けた移行措置 2 年目の年でした。

こうした状況を踏まえながら、当センターでは、様々な教育課題への対応と教職員の資質や指導力の向上をめざして、調査・研究、研修、相談等、多方面にわたる事業を行ってまいりました。

この報告書は、当総合教育センターが開設されて 25 年目に当たる平成 22 年度の運営および実施事業についての概要をまとめたものです。このたびの特色といたしましては、大きく次の 6 点を挙げるすることができます。

- ①指導主事による調査・基礎研究、長期研究員等による実践研究に取り組むとともに、拡大要請訪問や研修講師派遣事業及び学習指導案データベースの構築等を通して、各学校の授業の改善・支援に取り組んだこと
- ②教職員の資質や指導力の向上をめざし、初任者研修・年次研修等のライフステージに応じた研修、管理職研修や職に応じた研修等の必修研修並びに希望研修の内容の一層の充実に努めたこと
- ③5 年 10 年先を見据えた「教育の情報化推進計画」策定に向けた「ICT 機器活用調査」の実施、KEINS-NET や SAINS の運用管理、児童生徒の情報活用能力の育成及び教員の ICT 活用指導力の向上を目指した研修・研究の充実に努めたこと、情報モラル教育を推進するために教師用指導資料「情報モラル教育 Q&A」の改訂版の作成に取り組んだこと
- ④学校における多様な相談ニーズに応えるために、スクールカウンセラー配置事業においては、中学校の継続配置のほか、小学校・高等学校を対象に学校巡回カウンセラーを配置・派遣して相談体制の充実に努めたこと、また、継続研究として不登校未然防止の実践研究を進めたこと
- ⑤川崎市特別支援教育推進計画の展開や各学校への巡回相談員・巡回指導員・特別支援教育サポーター・指導主事の派遣等、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの活動支援の他、学校支援に努めるなど、特別支援教育体制充実の推進を図ったこと
- ⑥社会教育部門においては、視聴覚教材・機材関連の整備・貸出・技術講習を進めたこと

今後、学校教育の課題は、ますます多様化・複雑化するであろうと思われます。それらの一つ一つに適切に対応し、21 世紀にふさわしい川崎の教育の明るい未来を切り拓いていくために、今後とも学校支援の在り方等を見据えてセンター事業の一層の充実に目指していきたいと存じます。

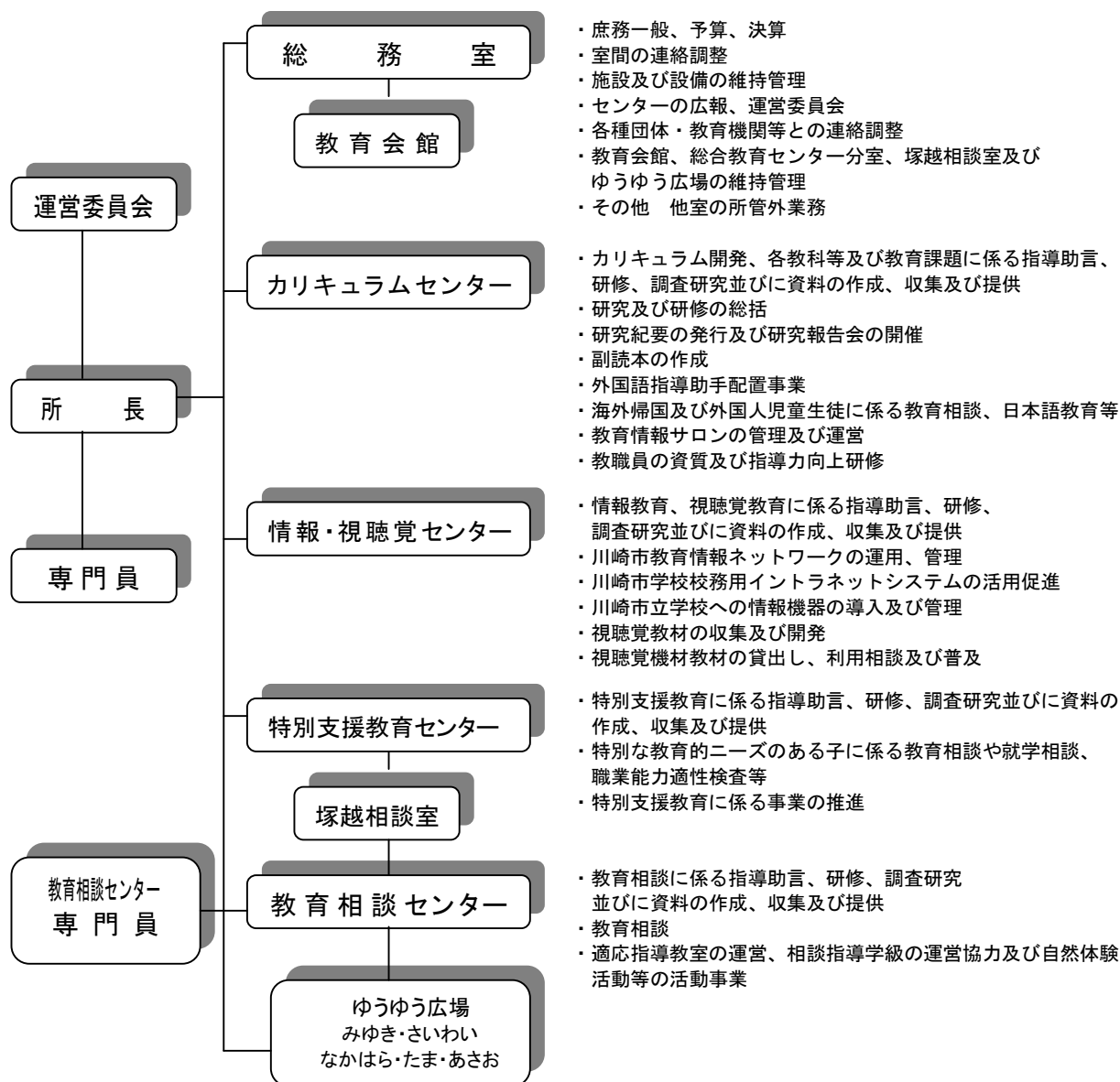
最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝を申し上げます。

川崎市総合教育センター  
所長 竹田 文夫

## 目 次

組織・事務分掌 .....	1
所員一覧 .....	2
運営委員 .....	3
予 算 .....	4
研究体系図 .....	5
1 調査研究 .....	6
2 教育関係教職員研修 .....	1 4
3 情報教育 .....	2 4
4 視聴覚教育 .....	2 8
5 特別支援教育 .....	3 0
6 教育相談 .....	3 5
7 外国語指導助手配置 .....	4 0
8 海外帰国・外国人児童生徒 .....	4 1
9 カリキュラムセンター事業 .....	4 2
1 0 広報及び刊行物等 .....	4 5

# 組織・事務分掌



## 会 議

- 管理者会議(月2回・第2、4火曜日)  
センターの管理運営に係る重要事項について審議する。
- 専門職等会議(月1回・第4月曜日)  
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え審議、検討する。
- 学校教育部・総合教育センター等連絡調整会議(年3回)  
学校教育部、区担当、総務部教育改革推進担当及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間7回・月末の水曜日)  
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

## 担当者会議(月1回・第1月曜日)

- 研究推進担当者会議  
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議  
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議  
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進  
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議  
所報の発行、センターの広報活動の計画、推進

## 所 員 一 覧

所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	
	理事・所長	竹田 文夫		室長	佐藤 裕之	特別	室長	巴 好子	
	担当課長	井上 明彦		担当課長	稲毛 伸幸	指導	指導主事	片山 純子	
総務室	室長	天野 利明	カリキュラムセンター	" (併)	諏佐 裕子	支援	充て指導主事	吉田 宴	
	課長補佐	山科 好子		指導主事	辰口 直美	充て指導主事	"	高木 幸江	
	主任	森 正		充て指導主事	須山 佳代子	"	"	栗山 八寿子★	
	主任	関口 智恵子		"	南谷 隆行	"	"	稲葉 武★	
	主任	平田 美保		"	榎原 真也	"	長期研究員	伊藤 琢也	
	事務職員	天野 由幸		"	網屋 直昭	"			
	事務職員	飯塚 望		"	中西 憲子	"			
	事務職員	渋谷 昌広		"	川崎 靖弘	"			
	担当係長	竹下 和洋		"	佐藤 利行	"	教育	室長	堀米 達也 ★
					"	布川 広	相談	指導主事	松崎 哲範 ★
情報・視聴覚センター	室長	阿部 厚	"	野田 まなみ	"	充て指導主事	鈴木 廣和 ★		
	課長補佐	高橋 慶子	"	森島 烈	"	"	新井 紀代美		
	指導主事	小松 良輔	"	明瀬 正一	"	カウンセラー研究員	中川 薫		
	"	樋口 彰	"	川野 佳秀	"	専任教諭	辻 敏明		
	充て指導主事	坂牧 秀則	"	荒井 利之	"				
	"	熊谷 顕太郎	"	佐藤 公孝	"				
	事務職員	稲垣 敏幸	"	後藤 美智子	"				
				藤中 大洋	"				
				伊藤 香緒里	"				
				小林 正史	"				
			山岸 木聖	"					
			太田 景子	"					
			野平 夕子	"					
			牛木 寿美	"					

★＝塚越相談室勤務

## 専 門 員

氏 名	現 職	専 門 領 域
天笠 茂	千葉大学教授	総合・特活
工藤 文三	国立教育政策研究所初等中等教育研究部長	教育課程
高木 展郎	横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター長	学習評価
森本 信也	横浜国立大学教授	教育評価
千々布 敏弥	国立教育政策研究所研究企画開発部総括研究官	カリキュラム開発
植田 誠治	聖心女子大学教授	健康教育
佐藤 郡衛	東京学芸大学副学長	国際理解教育
岡田 弘	東京聖栄大学教授	学級経営
黒沢 惟昭	長野大学教授	学社融合
原 克彦	目白大学教授	教育情報ネットワーク
野中 陽一	横浜国立大学准教授	教育の情報化
土谷 良巳	上越教育大学大学院教授	教育心理学
霜田 浩信	群馬大学准教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学教授	臨床心理学
芳川 玲子	東海大学教授	教育相談

## 教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専 門 領 域
古荘 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴養 啓子	昭和女子大学教授	臨床心理学

## 川崎市総合教育センター運営委員 (敬省略)

氏 名	現 職	専門領域
宮川 政久	川崎市学校保健会会長	学校保健
小原 良	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
西谷 明子	中央大学名誉教授	生涯学習
落合 優	横浜国立大学教授	学校経営
塚田 庸子	横浜国立大学客員教授	理科教育
赤堀 侃司	白鷗大学教授	情報教育
田原 淳子	国土舘大学体育学部教授	保健体育
阿部 敏子	神奈川県警少年育成課 少年相談・保護センター所長	児童生徒指導
森久保 安美	産業能率大学名誉教授	言語教育
小川 信夫	玉川大学継続学習センター客員講師	人間理解
◎ 関戸 英紀	横浜国立大学教授	特別支援教育
○ 白川 勝幸	川崎市立小学校長会会長 川崎市立宮前小学校長	小学校教育
渡邊 直樹	川崎市立中学校長会会長 川崎市立はるひ野中学校長	中学校教育
小酒井 英一	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立高津高等学校長	高校教育
今宮 清明	川崎市特別支援学校長会会長 川崎市立龔学校長	特別支援教育
門倉 慎児	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育
新名 美雪	川崎市教職員組合教文部長	学校教育
小島 晃宏	川崎市公立学校管理職組合執行委員長 川崎市立子母口小学校長	学校教育

- ◎ 委員長  
○ 副委員長

予 算

単位 千円

年 度	平成22年度	平成21年度	平成20年度
科 目	千円	千円	千円
総合教育センター費	1, 121, 629	826, 476	659, 326
教育調査研究費	29, 690	30, 290	29, 181
教職員等研修費	22, 110	23, 332	30, 426
教育相談費	85, 070	88, 949	84, 799
適応教室運営費	79, 709	116, 234	98, 618
教育情報ネットワーク事業費	208, 590	190, 118	156, 978
視聴覚教育費	2, 536	6, 135	2, 666
平和教育推進費	1, 173	1, 235	1, 290
外国語指導助手配置事業費	229, 095	188, 520	110, 433
海外帰国子女等関係費	49, 740	35, 835	35, 975
理科支援員等配置事業	48, 998	45, 300	15, 323
カリキュラムセンター事業費	646	596	650
センター・塚越相談室運営管理費	343, 322	78, 901	71, 576
教育会館運営管理費	12, 328	12, 470	12, 622
幼児教育センター等運営管理事業費	7, 422	7, 361	7, 589
その他経費	1, 200	1, 200	1, 200
総合教育センター費外	1, 196, 094	1, 100, 106	1, 163, 288
学校教育活動支援事業費	514	1, 058	2, 693
児童生徒・指導相談業務費	103, 271	98, 701	96, 690
教育課程・学習指導に関する事務	22, 633	32, 062	43, 348
特別支援教育サポーター配置事業	56, 779	48, 352	34, 536
学校評価システム調査研究事業費	1, 645	3, 598	6, 000
情報化教育推進事業費	1, 008, 413	913, 171	977, 666
人権教育推進事業費	1, 243	1, 285	846
子どもの権利学習等推進事業費	1, 596	1, 879	1, 509

# 川崎市総合教育センター 平成 22 年度研究体系図

教育基本法

学校教育法

新しい学習指導要領

かわさき教育プランの目標  
及び重点施策・基本施策

## 総合教育センター研究

### 研究総括主題：「生きる力」をはぐくむ川崎の教育の創造

#### 実践研究

#### 実践研究主題：～実感ある学びを創造する授業の在り方～

#### 調査・基礎研究

##### ■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

##### ○指導主事研究

<カリキュラムセンター>

- ・小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き作成に関する研究（1-1）

<情報・視聴覚センター>

- ・電子黒板の効果的な授業活用に関する研究（1-1）

<教育相談センター>

- ・不登校未然防止に向けた実践的研究（2-2）

<特別支援教育センター>

- ・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対する特別支援教育体制の整備（2-2）

##### ■各教科等教育活動に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究

##### ■各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究

##### ○長期研究員・研究員による研究会議

<カリキュラムセンター>

- ・郷土史資料編集：副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究
- ・理科：考えて表現し、学ぶ意欲を育てる理科授業
- ・図画工作・美術科：[共通事項]を生かして感性をはぐくむ図画工作・美術科の授業
- ・外国語教育：コミュニケーションを支える文法指導の研究
- ・高校教育：自己理解を深めるためのキャリア教育の研究

<特別支援教育センター>

- ・特別支援教育：通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方

##### ○指導主事・研究員による研究会議

<カリキュラムセンター>

- ・生活科：幼児教育から小学校へのなめらかな接続をめざして
- ・家庭科：家庭科における安全指導の工夫
- ・健康教育：自ら適切に判断できる力を育てる健康教育
- ・国際理解教育：児童生徒と学級の実態から年間を通してはぐくむ  
国際理解教育の授業の在り方について

<情報・視聴覚センター>

- ・情報教育：学びの質を高める授業の在り方

<教育相談センター>

- ・学校教育相談：帰りの会を使って自尊感情の高まりをめざした研究

<特別支援教育センター>

- ・特別支援教育：川崎市における地域支援システムの構築

##### ○専門研究員、カウンセラー研究員の研究

- ・専門研究員による研究：専門高校におけるデザイン制作指導の研究
- ・カウンセラー研究員による研究：学校における教育相談の在り方

#### 共同研究

○コンピュータ教育利用共同研究  
金程中

○授業力向上支援事業研究協力校  
下平間小 東高津中 はるひ野小中

○指定都市共同研究  
(指定都市教育研究所連盟) 第16次担当者会

○全国教育研究所連盟

○神奈川県教育研究所連盟

○関東教育研究所連盟



# 1 調査研究

## 1 センター研究の基本的な捉え方について

総合教育センターでは、設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っており、研究の推進に当たっては、「基礎的研究の推進」「実践的研究の推進」「先導的研究の推進」を基本的な3つの視点として位置付けている。

総合教育センターは従来の「研究・研修」に加え、平成17年度の学校教育部からの業務の移管に伴い、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担う立場となった。このことにより、指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握することが可能となっている。

そこで、これからの総合教育センターの研究では、これまでの研究の基本的な視点は踏襲しつつも、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえた上での各教科等に係る指導方法の改善や教師の授業力の向上等を目指す実践的な内容を研究の中心に据えて推進する。(別紙「研究体系図」参照)

### ◇調査・基礎研究

#### ■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

#### ○指導主事研究

- ・「小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」の作成
- ・電子黒板の効果的な授業活用に関する研究
- ・不登校未然防止に向けた実践的研究
- ・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に対しての、特別支援教育体制の整備

### ◇実践研究

#### ■各教科等教育活動に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究

#### ■各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究

#### ○長期研究員・研究員による研究会議

郷土史資料編集、理科、図画工作・美術、外国語、高校教育、特別支援教育

#### ○指導主事・研究員による研究会議

生活科、家庭科、健康教育、国際理解教育、情報教育、学校教育相談、特別支援教育

#### ○専門研究員、カウンセラー研究員の研究

### ◇共同研究

- コンピュータ教育利用共同研究（金程中）
- 授業力向上支援事業研究協力校（下平間小・東高津中・はるひ野小中）
- 指定都市共同研究（指定都市教育研究所連盟）第16次担当者会
- 全国教育研究所連盟
- 神奈川県教育研究所連盟
- 関東教育研究所連盟

### ◇調査・基礎研究

「小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」の作成

(カリキュラムセンター指導主事研究)

カリキュラムセンターでは、「児童生徒の学習評価の在り方について」(報告)及び「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(通知)で示さ

れた基本的な考え方を受け、各学校への支援として「小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」を作成することとした。今回の改訂で重視されている評価の妥当性、信頼性を高める取組や学校における組織的な取組の在り方を中心に整理して解説することで、各学校における学習評価の取組が円滑に推進されることを目指した。

<スタッフ> カリキュラムセンター指導主事

電子黒板の効果的な授業活用に関する研究

(情報・視聴覚センター指導主事研究)

川崎市では、平成 21 年度文部科学省の「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」事業を受け、柿生小学校と今井中学校の 2 校をモデル校として各教室に整備された電子黒板の効果的な授業活用に関する研究を行った。本研究では、平成 21 年度に行った研究を基にしながら各校 1 台の電子黒板の有効な活用に関する授業モデルの作成を行うことにした。研究を進めるにあたり、整備された電子黒板の活用状況、設置場所、活用にあたっての有効な側面と課題となる側面についての調査を実施した。この調査と電子黒板を活用するにあたり必要な周辺機器の整備状況、電子黒板の特性、活用の目的を基にしながら各校 1 台の電子黒板を学校のどこに設置し、どのように活用すると有効なのか、その授業モデルについて研究を行った。

<スタッフ> 小松 良輔 (指導主事) 樋口 彰 (指導主事) 坂牧 秀則 (指導主事)  
熊谷 顯太郎 (指導主事)

不登校未然防止に向けた実践的研究

(教育相談センター指導主事研究)

川崎市における不登校児童生徒数は、多少の増減はあるものの毎年高い数値を示しており大きな課題となっている。中学校の不登校数は、中学 1 年の段階で現れる不登校の急増「中 1 不登校」に加え、新たに中学 2 年・3 年で現れる不登校生徒が加わり、中学全体の不登校数を押し上げている状況がある。平成 19 年度から毎年『学校生活』についての調査』を継続して実施してきた。調査開始時に小学 6 年であった児童を 4 年間追跡調査し、学校生活における子どもたちの変化を分析することで、これからの不登校未然防止に関する効果的な支援の在り方を探った。

<スタッフ> 新井 紀代美 (指導主事) 松崎 哲範 (指導主事) 鈴木 廣和 (指導主事)

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に対するの、特別支援教育体制の整備

(特別支援教育センター指導主事研究)

平成 22 年度は、次の 3 点を小・中・高等学校の目標として設定し、特別支援教育の校内体制整備を進めた。

- (1) 保護者に対して特別支援教育実施計画・実績を広報するとともに、校内における相談窓口を知らせ、教育相談を実施する。
- (2) 校内委員会の充実を図る。(ケース検討・研修・情報交換・クラス支援・支援方法の検討等)
- (3) 外部機関(巡回相談員、巡回指導員、特別支援学校地域支援部、通級指導教室、地域支援チーム)との連携をすすめ、成果を共有化する。

各校の実施状況を把握するための調査を、6 月、1 月の 2 回行った。

各項目とも前年度に比べ回数が増加しており、ことに校内委員会での協議ケース数は、21 年度の 3,469 に対し、今年度は 5,685 と著しい伸びを示した。その結果全児童生徒に対する協議ケース数の割合は 3.54% から 5.63% となった。また、校内体制の牽引役であるコーディネーターの複数配置や専任化、授業時数の配慮が行われている学校が増え、徐々に高等学校でも校内委員会の開催ならびに外部連携が定着してきた。以上の調査結果より、コーディネーターに対する活動時間の確保(分掌、授業など)、資質の向上が校内体制整備に向けた課題と考え、次年度も特別支援教育推進モデル校と連携しながら調査研究を進めていく。

<スタッフ> 稲葉 武 (指導主事) 荒井 真理 (指導主事) 栗山 八寿子 (指導主事)  
高木 幸江 (指導主事) 片山 純子 (指導主事) 吉田 宴 (指導主事)

## ◇実践研究

### 副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究

(郷土史資料編集研究会議)

平成24年度に、副読本「かわさき」の全面改訂版が発行される。その副読本をどのような方針のもとに編集し、どのように活用していったらよいか研究した。

現行副読本のよさと課題を分析し、より問題解決的な学習に対応した副読本を追究した。特に「問題解決的なページ」試案を使った授業では、「問題の発見」と「問題の追究・解決」、「学習のまとめ」の3種類のページによって、問題解決的な学習過程に沿って副読本を活用することができた。また、副読本活用の際に、資料提示や発問等を工夫することで、より効果的に学習できることも明らかになった。

<スタッフ> 小林 正史(長期研究員)

鵜木 朋和(研究員) 林 武夫(研究員) 山田 邦昭(研究員)

### 考えて表現し、学ぶ意欲を育てる理科授業

(理科研究会議)

本研究では、児童生徒の理科を学ぶ意欲を育てることを目的とした研究を行った。研究対象となる児童生徒の意識調査を実施し、5つの授業研究を行って現れた児童生徒の姿を検証した。

理科を学ぶ意欲を育てるためには、理科学習の問題解決の流れの中で、「日常と科学を関連づけた授業を構想し、子ども自身が日常と科学とのつながりを感じるようにすること」、「子どもの多様な考え方や表現に対応するための授業づくりを行ったり、子ども同士が意見を交流する場面を設定したりすること」が大切であり、これらの学習活動を通して学習への関心を高め、学ぶ意欲を育み、子どもの学びを深めていくことができるということが明らかになった。

<スタッフ> 山岸 木聖(長期研究員)

山本 貴弘(研究員) 大川 洋(研究員) 間馬 雅子(研究員)

### 〔共通事項〕を生かして感性をはぐくむ図画工作・美術科の授業

(図画工作・美術研究会議)

図画工作・美術科の新しい学習指導要領に新設された〔共通事項〕について、教師の共通理解とそれを適切に位置づけた授業の在り方を研究した。

教師は、教材研究をしっかりと行い、題材を通してはぐくむ児童生徒の形や色等に関する資質や能力を明確にして授業を進めることが大切であることが検証授業により明らかになった。〔共通事項〕の視点から、教師が児童生徒の取組に造形的な意味や価値を見出すことで、児童生徒の感性をはぐくむことができる。すなわち、〔共通事項〕は、教師と児童生徒をつなぐ理解の視点になるということが確認された。

<スタッフ> 太田 景子(長期研究員)

末口 久美子(研究員) 鈴木 貴久(研究員) 熊谷 佳子(研究員)

### コミュニケーションを支える文法指導の研究

(外国語研究会議)

コミュニケーションのなかで適切に文法知識を活用できる生徒を育成するため、明確な場面設定と内容豊かな話題を意識し、ことばを使わせながら文法知識を身につけさせる授業実践を研究した。

教師の意識が「教えてから使わせる指導」から「使いながら学ばせる指導」へと変容することによって、教師は生徒の思いや考えをことばとして引き出すようになり、生徒は適切な文法を使って思いを伝えようとするようになった。よって、明確な場面設定があり、豊かな内容を話題にして、教師が「使わせて学ばせる」という意識をもって文法指導を行うことが有効であることがわかった。

<スタッフ> 野平 夕子(長期研究員)

大澤 有史(研究員) 大窪 洋次郎(研究員) 添田 紗織(研究員)

### 自己理解を深めるためのキャリア教育の研究

(高校教育研究会議)

高校生が将来を見通した上で主体的なキャリア選択を行っていくために、自己理解を深めることが大切である。そこで本研究会議では、授業において、学びと社会のつながりを意識させながら、生徒一人一人の自己理解を深めさせるための手立てを研究した。実践研究では、授業に、話し合い活動などの他者とのつながりを取り入れることや、教師が学びと社会とのつながりを示すことを通して、生徒の思考は広がりや深まりを見せた。そこから自分自身を客観的に見られるようになり、自分自身への新たな気づきが起こることが確認された。また、「キャリア教育の視点」を授業に取り込むことの有効性を示すことができた。

<スタッフ>牛木 寿美(長期研究員)

松本 智春(研究員) 大川 一幸(研究員) 安藤 勉(研究員)

### 「個」への支援を生かした、学び合う「学級集団」づくり

(特別支援教育研究会議)

児童生徒の支援について考える時に、困り感を抱える「個」への支援を生かしていく一方で、対象児童生徒を取り巻く「学級集団」について考えていくことも大切である。本研究では、3つの視点及び手だてとして、①「わからない」といえる授業づくり②「学習のユニバーサルデザイン」③「協同的な学習」を授業に取り入れて、学習課題を通じて学び合う集団を育てていくことで、学習活動の主体的な参加、学習課題の達成と成就感の獲得、学級集団の凝集性やスキルの向上などの結果がもたらされることがわかった。

<スタッフ>伊藤 琢也(長期研究員)

小久保 裕之(研究員) 中村 由記子(研究員) 西川 友子(研究員)

### 幼児教育と小学校教育の接続

(生活科指導主事と研究員による研究)

幼児期の教育(幼稚園、保育所、認定こども園における教育)と小学校教育は、それぞれの段階における役割と責任を果たすとともに、子どもの発達や学びの連続性を保障するため、両者の教育が円滑に接続し、教育の連続性・一貫性を確保することが求められている。幼児教育との接続の視点から生活科を見直すことは、子どもの思いや願いを生かし、主体的な学習を重視することにつながった。接続期を支える双方の指導者は、相互の教育方法を理解し、見通しをもって指導に当たることが必要であることが確かめられた。

<スタッフ>中西 憲子(指導主事) 伊藤 香緒里(担当係長)

戸崎 恵(研究員) 竹井 浩美(研究員) 大坂 匡弘(研究員)

### 家庭科における安全指導の工夫

(家庭科指導主事と研究員による研究)

家庭科ではより一層実践的・体験的な活動を通し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うことが求められている。そこで、実習や製作を進めるに当たり、家庭科室の用具等の配置や機械の点検など学習環境を整えて事故防止に努める具体例や食品についても安全で衛生面に留意した具体例をあげた家庭科安全ハンドブックを作成することとした。その結果、具体例を図示することで、教員の安全に関する意識が向上し、繰り返し指導することで児童に定着していくことがわかった。

<スタッフ>野田 まなみ(指導主事) 森島 美子(研究員)

堀口 智子(研究員) 井上 真彰(研究員)

### 自ら適切に判断する力を育てる健康教育

(健康教育指導主事と研究員による研究)

保健室に来室する児童生徒にけがや体調不良が起きた時に他人まかせにして、自ら考え対処しようとしていないことが多くみられる。そのことから、子どもたちが自分の創傷の治癒過程の見通しをもち、けがの状

態に応じた対処方法を自ら適切に判断し、対処していこうとする力を育てていくことが大切であると考えた。創傷の治癒過程に見通しをもち主体的に学ぶ場を設定し、体のしくみやはたらきの理解を深め、自ら適切な判断と手当ができる教材の作成を工夫した保健指導を実施し、創傷の状態を自ら適切に判断し対処できる力が育つこととの関連を明らかにした。指導の工夫により、治癒過程を意識し判断することや対処方法を深く考えることができるようになり、体の中でおきていることにも目を向けて自分でできる判断や対処方法を実践しようとする意欲を高めることができたと考えられる。

<スタッフ> 後藤 美智子 (指導主事) 加藤木 藤子 (研究員) 吉原 緑 (研究員)  
猪狩 和子 (研究員)

#### 児童生徒と学級の実態から年間を通してはぐくむ国際理解教育の授業の在り方について

(国際理解教育指導主事と研究員による研究)

年度当初に児童生徒と学級の実態を把握した上で、国際理解教育目標構造図にそって、年間を通して国際理解教育で育てたい児童生徒と学級の姿を設定した。年間を通した継続的な取組と道徳の実践を両輪として、一人一人の児童生徒の態度・能力を育てるとともに児童生徒にとって、一番身近で重要な社会である学級を育てる実践の姿を探った。また、国際理解教育の授業を、小学校低・中・高学年、中学校ごとに系統立てて実践できるように、国際理解教育学年表を作成した。

<スタッフ> 佐藤 公孝 (指導主事) 首藤 弘明 (研究員) 仲村 晃代 (研究員)  
福岡 弘行 (研究員) 坂田 智恵 (研究員)

#### 学びの質を高める授業のあり方

(情報教育指導主事と研究員による研究)

平成21年度、国の政策により、市内全学校全教室に大型プラズマテレビが導入され、各普通教室にはノート型コンピュータが整備された。本市のアンケート(平成22年9月実施)では約60%の教員が、普通教室で大型デジタルテレビを「よく使っている」または「ある程度使っている」と答えている。本研究では、学習指導要領の全面実施に向け、学びの質を高める授業の在り方をICT活用の視点から考察した。各教室に整備された50インチテレビを使い、拡大提示(可視化)を授業に組み込むことで、学習意欲の高まりや情報の共有、学び合いなど様々な効果が表れ、学びの質が高まっていくことがわかった。

<スタッフ> 樋口 彰 (指導主事) 倉田 亨 (研究員) 浜崎 俊治 (研究員)  
服部 大 (研究員) 今村 栄作 (研究員)

#### 帰りの会を使って自尊感情の高まりをめざした一考察

(学校教育相談指導主事と研究員による研究)

教育の今日的な諸問題の背景には、かかわりの希薄さや、ストレス要因の増加、さらに自尊感情の乏しさなどがあるのではないかという指摘がある。そこで、互いに相手のよさを伝え合い自尊感情の高まりをめざす「人のよさを見つけるプログラム」に着目した。本プログラムモデルが自尊感情に効果的な影響を及ぼしたのではないかと思われる生徒は、もともと自尊感情の得点が学級の中で極端に低い群の子どもたちであったこと、負の自己評価をしやすい群であったこと、自分が仲間から帰りの会でプラスの評価をもらうことに肯定的なとらえ方の生徒であったことがわかった。また、付随的な結果として、学級集団へプラスの影響を生じさせる効果があることもうかがえ、今後の可能性と新たな視点が示唆された。

<スタッフ> 松崎 哲範 (指導主事) 陸田 由喜子 (研究員) 石橋 瑞穂 (研究員)  
津藤 信吾 (研究員) 伊藤 由佳子 (研究員)

#### 川崎市における地域支援システムの構築

(特別支援教育指導主事と研究員による研究)

川崎市では平成16年度から、体制充実事業の一環として、専門化チームや巡回相談員、巡回指導員、特別支援学校地域支援部などが、それぞれ市内の学校に対する支援にあたってきた。より充実した支援を行うためには、チームとして活動し各々の専門性を生かしていくことが必要ではないかと考えた。そのた

めにはどのような条件整備が必要であるかを、市立特別支援学校から募った研究員と共に検討した。市内を4ブロックに分けて、地域支援チームを各ブロックに配置し、特別支援教育推進モデル校を中心とした学校支援に取り組んだ。モデル校コーディネーターに対して、自校の特別支援教育の現状、地域支援チームに対する意識調査を行い、地域支援チームの活動の有効性が確認でき、川崎市における地域支援の在り方に関する方向性が確認できた。

<スタッフ>荒井 真理 (指導主事) 宮川 淳子 (研究員) 長谷川 隆弘 (研究員)  
関口 陽子 (研究員)

#### 専門高校におけるデザイン制作指導の研究 (専門研究)

本研究では、専門高校デザイン科生徒の作品制作に取り組む意識の向上を図り、言語活動を充実させながら、創造性や実践力を高めるための指導方法の研究を行った。まずデザイン科生徒、担当教員の意識を調査し、関連する文献を収集した。授業ではプロセスに基づいた問題解決学習を軸に、協同制作や講習会を取り入れることで新たな考え方に気づき、より創造的な制作活動になるであろうという視点で実施し、検証を行った。結果として生徒の制作活動の新たな側面を発揮させられた。特に協同的な活動によって、社会や人とデザインの関係の理解をすすめられることがわかった。

<スタッフ>渡邊 孝行 (専門研究員)

#### 学校における教育相談の在り方 (カウンセラー研究)

本研究では、教育相談を用いて問題行動を未然に防ぐ手立てや、積極的に生徒を成長させる支援について考察した。積極的に教育相談を進めるための教師の在り方や、問題行動を未然に防ぐ教育相談の機能について考えた。また、研究から学んだことを学校で実践し、効果があった点について報告した。カウンセリングの様々な技法・手法は、生徒との関係づくりに有効であることがわかった。また、学校生活のあらゆる場面で行っている教育相談のかかわりについて考察した。教育相談を用いて生徒とかかわることによって自分自身の生徒とのかかわり方に変容があり、そのことによって、徐々にではあるが、生徒も願い通りの変容が見られることもあった。

<スタッフ>中川 薫 (カウンセラー研究員)

## 2 研究報告

### (1) 川崎市総合教育センター研究報告会【別紙1】

平成22年度センター研究報告会は、平成23年2月23日(水)に当センターで開催した。この研究報告会は、当センターの調査・基礎研究及び実践研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。昨年度より、学校からより参加しやすい研究報告会にするため3時からの開催としており、指導主事研究および各長期研究員による研究の7分科会で研究報告を行った。申込者、来賓合わせて653名の方々に参加をいただき、各分科会で活気あふれる研究報告会となった。また、指導助言者からは、それぞれの立場や専門的な視点からの指導助言をいただいた。

### (2) その他の研究発表【別紙2】

## 3 その他の研究事業

研究冊子等の発行

川崎市総合教育センター研究紀要 第24号 (平成22年度版)

平成22年度に調査研究した内容の掲載

## 別紙 1

## 平成 22 年度 センター研究報告会指導主事研究、研究会議分科会

研究名	研究主題	発表者	講師
教育相談 センター 指導主事研究	不登校未然防止に向けた実践的研究	指導主事 新井 紀代美	日本女子大学 人間社会学部 教授 鶴養 美昭 氏

分科会 研究会議	研究主題	発表者	講師
第 1 分科会 郷土史資料編集 研究会議	副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究 —問題解決的な学習の中で 活用しやすい副読本をめざして—	真福寺小学校 小林 正史	川崎市立橘小学校 校長 石川 健次 氏
第 2 分科会 理科 研究会議	考えて表現し、学ぶ意欲を育てる理科授業 —日常と科学をつなげる手立てを探る—	橘小学校 山岸 木聖	横浜国立大学 教育人間科学部 教授 森本 信也 氏
第 3 分科会 図工・美術科 研究会議	〔共通事項〕を生かして 感性をはぐくむ図画工作・美術科の授業 —みる・きく・ふれる・つたえる活動を 取り入れて—	西中原中学校 太田 景子	横浜国立大学 教育人間科学部 准教授 小池 研二 氏
第 4 分科会 外国語教育 研究会議	コミュニケーションを支える文法指導の研究 —豊かな言語活動をめざした 導入と練習の考察—	川崎中学校 野平 夕子	駒沢女子大学 人文学部 准教授 太田 洋 氏
第 5 分科会 高校教育 研究会議	自己理解を深めるためのキャリア教育の研究 —教科における学びと社会のつながりを 取り入れた授業を通して—	橘高等学校 牛木 寿美	国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 部長 工藤 文三 氏
第 6 分科会 特別支援教育 研究会議	通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズの ある児童生徒に対する支援の在り方 —「個」への支援を生かした、 学び合う「学級集団」づくり—	南菅中学校 伊藤 琢也	群馬大学 教育学部 准教授 霜田 浩信 氏

教育研究所教育研究所連盟における研究発表

期 日	大 会 名 場	研 究 主 題	発 表 者
11 月 1 日	神奈川県教育 研究所連盟教 育研究発表大 会  海老名市立海 老名小学校	<p>聞く意識を働かせる学習指導の研究 ～必然性のある場と メモの活用を考えながら～</p>	<p>黒谷 祥子 川崎市立宮崎台小学校 平成 21 年度長期研究員</p>
		<p>〈音楽科〉楽しい鑑賞の授業をめざして</p>	<p>千葉 葉子 川崎市立はるひ野中学校 平成 21 年度長期研究員</p>
		<p>コミュニケーション能力の素地を 育てる指導 〈小学校外国語活動〉</p>	<p>響田 亜子 川崎市立向小学校 平成 21 年度長期研究員</p>



## 2 教育関係教職員研修

### 1 ICT活用研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
101	ICT活用初級(ワード2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用)</p> <p>ワード2007を利用して文書作成の基本を学ぶ。書式の設定、文章の入力、編集、画像の挿入などの機能を活かし、教材作成や校務処理に役立てる。</p> <p>(1)ICT活用 初級(ワード2007)の活用・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/2	26
102	ICT活用中級(ワード2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用)</p> <p>ワード2007を利用して文書作成を学ぶ。ワードアートやオートシェイプなどの機能を活用して、教材作成や校務処理に役立てる。</p> <p>(1)ICT活用 中級(ワード2007)の活用・インストラクター(総合教育センター)</p> <p>(2)ICT活用 中級(ワード2007)活用・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/3	112
103	ICT活用中級(エクセル2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用)</p> <p>エクセル2007を利用して表計算を学ぶ。成績処理、グラフ作成、週案作成、データベース機能など様々な活用例で校務処理に役立てる。(中級)</p> <p>(1)関数を利用した成績処理・インストラクター(情報・視聴覚センター)</p> <p>(2)成績処理、エクセルを利用した文書作成・インストラクター(総合教育センター)</p> <p>(3)保護を利用した週案作成、グラフ・インストラクター(総合教育センター)</p> <p>(4)VLOOKUP関数の利用、データベース・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/5 8/6	262
104	ICT活用初級(パワーポイント2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準C(児童生徒の活用)</p> <p>パワーポイント2007を利用して教材作成やプレゼンテーションする際の基本を実習を通して研修する。</p> <p>(1)パワーポイントの操作方法(1)・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/2	44
105	ICT活用中級(パワーポイント2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準C(児童生徒の活用)</p> <p>パワーポイント2007を利用して、わかる授業や確かな学力の育成のために操作方法と効果的な提示方法を研修する。</p> <p>(1)パワーポイントの操作方法(1)・インストラクター(総合教育センター)</p> <p>(2)パワーポイントの操作方法(2)・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/4	63
106	デジタル画像入門	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力の基準A(教材研究)</p> <p>ビデオカメラで撮影した映像をコンピュータの動画編集ソフトを使って編集し、授業の中で活用できるようにするための研修を行う。</p> <p>(1)講話 心に問いかける映像メッセージ(講演)・原動(日本アマチュア映像作家連盟)</p> <p>(2)実習 コンピュータでの動画編集・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/11	54
107	情報モラル教育	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準D(情報モラル)</p> <p>新学習指導要領で求められている情報モラルを児童生徒に教えていく力を身につけ、ICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>(1)すぐにできる情報モラル教育、授業実践・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/17	9
108	学校・研究会ホームページ作成	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準E(校務での活用)</p> <p>ホームページを作成するためにホームページビルダーを使って、基本的な作成方法や公開までの手順等を研修する。</p> <p>(1)学校・研究(部)会のホームページを作成・更新するときの留意点・指導主事他(総合教育センター)</p> <p>(2)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(1)・指導主事他(総合教育センター)</p> <p>(3)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(2)・指導主事他(総合教育センター)</p> <p>(4)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(3)・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/9 8/10	61
109	校務用コンピュータ活用	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準E(校務での活用)</p> <p>一人一台となった校務用コンピュータ、校務用イントラネット(サインズ)、エーロッキーの基本的な使い方(暗号化、金庫作成等)について研修する。</p> <p>(1)校務用イントラネット(サインズ)の使い方・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/17	6

### 2 授業力向上研修

201	国語科教育	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)(2)各教科等における言語活動の充実 講義とワークショップ・高木展郎(横浜国立大学教授) 森勇介(井田小) 吉田崇(宮内中) 小林美代(高津小) 近清えり子(宮前平小) 中野正明(稲田中) 國武和美(東門前小) 高橋徹(中原小)</p> <p>(3)(4)国語科授業の実際 講義とワークショップ・笠原登(日本国語教育学会) 片桐文雄(センター相談員) 白井理(生田中) 黒谷祥子(宮崎台小) 榊山雄高(東高津小) 安田洋(向丘小) 根田もゆる(西高津中) 穂苅ひと美(大戸小) 永田文子(南原小) 青木あゆ子(宮崎台小) 三浦美保(犬蔵小) 其山麻子(平小)</p> <p>(5)書写実技研修会(共催研修)・笠原登(日本国語教育学会)</p>	全校種教職員	8/4 8/16 8/17	396
202	社会科教育	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1)動態地誌を実践をもとに考える(中学校向け)・板橋美由紀(菅中) 稲田雅則(平間中)</p> <p>(2)小・中学校における効果的な地図活用を取り入れた授業づくり・寺本潔(玉川大学)</p> <p>(3)新学習指導要領対応 神奈川県事例を考える(小学校向け)・鶴木朋和(橋小) 小林正史(真福寺小) 高野伸夫(平小)</p>	全校種教職員	6/25 8/10	105

203	算数・数学科教育+(ICT授業活用)	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る</p> <p>(1)子どもの意欲を高める算数の授業実践(小学校向け)・滝井章(国学院大学)</p> <p>(2)コンピュータを活用した数学の授業作り(中学校、高等学校向け)・金野昌暢(柿生中)</p> <p>(3)算数・数学の授業改善～小学校の授業実践を通して～(共催研修)・永井宏(元市立小) 菊池俊光(元市立小)</p>	全校種 教職員	8/12 8/13 9/15	37
204	理科教育	<p>■ 新しい学習指導要領を踏まえ、小・中・高等学校の学びの連続性を研修の柱に据え、講義や実験実習等を通して授業力の向上を図ります。</p> <p>(1)理科臨地研修「自然観察」(共催研) 生田緑地をフィールドとして植物や露頭の観察を行います。・元小学校教諭(元川崎市立小) 元小学校長(元川崎市立小) 小学校教諭(川崎市立小)</p> <p>(2)授業研修「小・中合同理科研究授業」(共催研) 小学校の研究授業を通して学びの連続性について研修します。・堀久男(栗木台小)</p> <p>(3)実習「実験・観察①」 小学校の学習内容を中心に実験実習を行います。・米倉竜司(川崎市青少年科学館)</p> <p>(4)講義「理科教育」 これからの理科教育について講演を通して研修をします。・森本信也(横浜国立大学)</p> <p>(5)実習「実験・観察②」 中学校実践事例集より事例を取り上げ実験実習を行います。・中学校教諭(川崎市立中)</p> <p>(6)実習「実験・観察③」 もの作りを通して小・中・高等学校での学びについて研修します。・篠原恵(商業高校)</p> <p>(7)施設視察「エネルギー環境教育研修」 エネルギー、環境、先端科学技術に関わる研修を行います。・大石敏史(エネルギー環境情報センター)</p> <p>(8)理科臨地研修「天体観測」(共催研) 青少年科学館プラネタリウムを利用した天体観測を行います。・米倉竜司(川崎市青少年科学館)</p>	全校種 教職員	5/19 7/14 7/28 8/9 8/10 8/11 8/12 11/10	306
205	生活科教育	<p>■ 動物飼育に携わる方々の話を聞いたり、多摩川の生息調査等を体験したりする中で生命に対する愛情を感じる心情の育成を図る。</p> <p>(1)動物園体験実習(1日目) ～動物の継続的な飼育方法について～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(2)動物園体験実習(1日目) ～実習①餌の調理、寝床の準備等～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(3)動物園体験実習(2日目) ～実習②餌の調理、寝床の準備等～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(4)動物園体験実習(2日目) ～野生動物の保護及び動物病院の実態、現状について～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(5)(6)多摩川体験実習 -多摩川塾の講師を迎えて- (共催研修)・中本賢(多摩川クラブ)</p>	全校種 教職員	8/4 8/9 8/10	56
206	音楽科教育	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1)これからの音楽科の指導と評価・金本正武(千葉大学教授)</p> <p>(2)小学校音楽科共催研修「合唱指導講習」講師：渡辺陸雄</p> <p>(3)小学校音楽科共催研修「リトミック」講師：鈴木恵津子</p> <p>(4)中学校音楽科共催研修「津軽三味線」講師：佐々木壮明</p>	全校種 教職員	8/23 9/15 1/19 1/28	276
207	図画工作・美術科教育	<p>■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。</p> <p>(1)授業に生かせる実技研修会(からくり玩具製作) 高島金幾(大師中)</p> <p>(2)講演 「これから求められる図画工作・美術科教育ー授業力向上ー」 大泉義一(横浜国立大学教育人間科学部)</p>	全校種 教職員	8/2	75
208	体育・保健体育科教育	<p>■ 保健学習における小・中・高等学校の系統性について講義から学び、資質の向上を図る。</p> <p>(1)体育・保健体育(共催研修)・今関豊一(順天堂大学)</p>	全校種 教職員	11/26	98
209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	<p>■ 題材開発や教材開発を視点とした授業づくりと評価について、演習を取り入れた研修を行い、学習指導上必要な教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1)(2)小学校家庭科「生活に役立つ物の製作」(共催研修 小学校、特別支援学校向け)・安間正治(蛇の目ミシン)</p> <p>(3)(4)小学校家庭科「調理の基礎」(共催研修 小学校、特別支援学校向け)・結城達生(町田調理師専門学校)</p> <p>(5)(6)中学校技術・家庭科「日常食の調理」(共催研修 中学校、高等学校、特別支援学校向け)・結城達生(町田調理師専門学校)</p> <p>(7)(8)中学校技術・家庭科「生活を豊かにする物の製作」(共催研修 中学校、高等学校、特別支援学校向け)・安間正治(蛇の目ミシン)</p>	全校種 教職員	7/27 7/28 8/10	94

210	技術・家庭科(技術分野)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 題材開発や教材開発を視点とした研修を行い、教員の授業力向上を図る。</li> <li>(1) 技能・技術研修 1 (共催研修)・京免徹(宮内中)・町田義広(平間中)</li> <li>(2) 技能・技術研修 2 (共催研修)・京免徹(宮内中)・町田義広(平間中)</li> <li>(3) 技能・技術研修 3 (共催研修)・京免徹(宮内中)・町田義広(平間中)</li> <li>(4) 技能・技術研修 4 (共催研修)・京免徹(宮内中)・町田義広(平間中)</li> </ul>	全校種 教職員	8/19 8/20	42
211	英語科教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 4技能を総合的に育成する指導など、新学習指導要領を踏まえた指導について、講師の豊富な経験をもとに理論と実践を学び、日々の指導の改善を図る。</li> <li>(1) 英語力をつける教科書の扱い方。新指を受け、それに合う力をつけるための教科書本文を活かす授業を考える・久保野りえ(筑波大学附属中)</li> <li>(2) 新学習指導要領を授業者としてどう読むか。また、授業にどう反映させていくのかを実践例を交えながら学ぶ。・大鐘雅勝(千葉市立稲毛中)</li> </ul>	中学校 英語科 教職員	7/28	49
212	道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</li> <li>(1) 動物園体験実習(1日目)～動物の飼育について～・夢見ヶ崎動物公園職員</li> <li>(2) 動物園体験実習(1日目)～実習① 餌の調理、寝床の準備 他～・夢見ヶ崎動物公園職員</li> <li>(3) 動物園体験実習(2日目)～実習② 餌の調理、寝床の清掃 他～・夢見ヶ崎動物公園職員</li> <li>(4) 動物園体験実習(2日目)まとめ～野生動物の現状や動物病院の実態から生命尊重教育について考える～・指導主事(総合教育センター)</li> </ul>	全校種 教職員	8/9 8/10	66
213	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特別活動における学級活動の充実に向け、話し合いの具体的な方策を、実技・講義を通して学ぶ。</li> <li>(1) 話し合い活動の指導のポイントと意欲を高めるグッズ作り・谷澤和美(西丸子小)</li> <li>(2) 話し合い活動の展開と授業実践・谷澤和美(西丸子小)</li> </ul>	全校種 教職員	8/6	50
214	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 福祉や環境の体験活動を探究的な学習活動に適切に位置づけて単元構想していく資質の向上をめざす。</li> <li>(1) (2) 多摩川体験実習 -多摩川塾の講師を迎えて- (共催研修)・中本賢(多摩川クラブ)</li> <li>(3) (4) 福祉体験学習 ～社会福祉協議会の方々を迎えて～・長沼豊(学習院大学)</li> </ul>	全校種 教職員	8/4 8/24	93
215	小学校外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学習指導要領の趣旨を理解しながら、外国語活動の実際の活動例や授業の組み立てなどについて研修する。</li> <li>(1) 学習指導要領の趣旨を理解し、それにふさわしい活動の実践例や教室英語などについて学ぶ I・インストラクター(インタラック)</li> <li>(2) 学習指導要領の趣旨を理解し、それにふさわしい活動の実践例や教室英語などについて学ぶ II・インストラクター(インタラック)</li> </ul>	小学校 教職員	8/23 8/24	29

### 3 子ども理解研修

301	子どもの心をひらく児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人権尊重を意識した教育活動を行うために、信頼関係を築くエクササイズを実技演習を通して学ぶ。</li> <li>(1) 信頼関係を育てるエクササイズ「心をひらく川崎の表現活動」・児童文化研究会</li> <li>(2) 信頼関係を育てる参加・体験型プロジェクトアドベンチャー・白山明秀(玉川大学)</li> </ul>	全校種 教職員	8/12	49
302	国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国際協力機構(JICA横浜)を訪問し、海外協力隊の体験談・海外移住資料館見学等を通して国際教育の授業づくりの向上を図る。</li> <li>(1) ①JICAの活動説明および教員として海外で活動した実践体験談 ②海外移住資料館見学・佐々木敏幸(海外青年協力隊経験教員)</li> </ul>	全校種 教職員	7/30	17
303	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食育講話(食と環境問題、海外の食育事例、五感教育など)・調理体験と試食(授業でもできる旬の食材料理)を通して食育担当者の資質の向上を図る。</li> <li>(1) 施設の見学・体験・東京ガスインストラクター(東京ガス)</li> <li>(2) 食育講話・調理実習・東京ガスインストラクター(東京ガス)</li> </ul>	全校種 教職員	8/17	16
304	自分を大切に作る健康教育+(ICT授業活用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 子どもの健康課題である食生活や睡眠、喫煙、薬物乱用、性に関する問題等の実態を把握し、子どもの発達課題に応じた健康教育の在り方や進め方について講義や演習を通して学び健康課題解決に生かす。</li> <li>(1) 健康教育に活かすICT活用・指導主事他(総合教育センター)</li> <li>(2) ヘルスプロモーションの理念と学校における健康教育の在り方、進め方・島内憲夫(順天堂大学スポーツ健康科学部)</li> <li>(3) これからの性に関する教育あり方、川崎市における性教育の考え方・進め方・矢野君江(生田小)</li> <li>(4) 学校安全教育の具体的な進め方・戸田芳雄(浜松大学)</li> <li>(5) 薬物乱用防止教育の進め方・野津有司(筑波大学院人間総合科学研究科)</li> </ul>	全校種 教職員	8/16 8/17 8/18	177
305	教育相談 I 「事例研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育相談の基本的な考え方を学ぶと共に、事例や実践資料を通して適切な子ども理解や支援の在り方を学ぶ。</li> <li>(1) 事例研究(1)・芳川玲子(東海大学)</li> <li>(2) 事例研究(2)・芳川玲子(東海大学)</li> <li>(3) 事例研究(3)・鶴養啓子(昭和女子大学)</li> <li>(4) 事例研究(4)・鶴養啓子(昭和女子大学)</li> </ul>	全校種 教職員	7/28 8/12	32

306	教育相談Ⅱ「子どもの認知行動療法入門」	<p>■ 自己の感情や行動を抑制する自我能力を育成し、自己の感情コントロールを育てるプログラムの理論と実践を学ぶ。</p> <p>(1)プログラムの理論と実践(1)・下山晴彦(東京大学)</p> <p>(2)プログラムの理論と実践(2)・下山晴彦(東京大学)</p>	全校種 教職員	8/17	73
307	教育相談Ⅲ「Q-U」	<p>■ 学級集団の意識や満足度を把握することができる。Q-Uを活かした学級作りの基本的な考え方とその活かし方を学ぶ。</p> <p>(1)【基礎編】 Q-Uの理解と活用・浅川さなえ(壬生第1小)</p> <p>(2)【実践編】 K-13法を使った事例研究法・浅川さなえ(壬生第1小)</p>	全校種 教職員	8/13	36
308	教育相談Ⅳ「グループワーク」	<p>■ 開発的・予防的教育相談の視点から、子どもたちの関係性を育てるプログラムを学ぶ。</p> <p>(1)【小学校編】グループワーク・中島智美(三田小) 星野登美代(南生田中) 新井紀代美(総合教育センター) 松井恭子 吉田豊美(玉川中) 阿部雅子(田島小)</p> <p>(2)【中・高等学校編】グループワーク・阿部雅子(田島小) 吉田豊美(玉川中) 松井恭子 新井紀代美(総合教育センター) 星野登美代(南生田中) 中島智美(三田小)</p>	全校種 教職員	7/20	36
309	教育相談Ⅴ「カウンセリング技法」	<p>■ 子どもや保護者との教育相談を進める際に活かせる技法や活用方法を実践的に学ぶ。</p> <p>(1)カウンセリング演習(1)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p> <p>(2)カウンセリング演習(2)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p> <p>(3)カウンセリング演習(3)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p>	全校種 教職員	8/16 8/24	40

#### 4 職能別スキルアップ研修

401	養護教諭キャリアアップ	<p>■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。</p> <p>(1)保健室経営の考え方、進め方ー根拠をもった心とからだの観察とヘルスアセスメントの基本ー・三木とみ子(女子栄養大学)</p> <p>(2)学校保健マネジメントと子どものメンタルヘルスの対応についてー平成21年度健康教育指導者養成研修からー・河原明美(東橋中) 岩田和枝(向小)</p> <p>(3)平成21年度健康教育研究会議研究報告「自分のからだを把握し、伝えることができる健康教育」・岡村佳奈(荏宿小) 外山知子(王禅寺中央中) 植田誠治(聖心女子大学) 森本明子(塚越中) 内藤志津子(久本小)</p> <p>(4)養護教諭が行う保健学習の進め方・植田誠治(聖心女子大学)</p>	養護教 諭	8/19 8/20	156
402	救急用酸素人工蘇生器取り扱い	<p>■ 各学校に配備されている救急用酸素人工蘇生器の取り扱いについて研修し、緊急時に適切な対応と救急用酸素人工蘇生器の使用ができる技術の向上を図る。</p> <p>(1)救急用酸素人工蘇生器の取り扱いについて・恵秀彦(了徳寺大学健康科学科)</p>	養護教 諭	8/23	12
403	学校事務職員	<p>■ 実技演習や実践交流を通じて、学校事務職員としての専門性を高め、資質の向上を図る。</p> <p>(1)実務に役立つ演習1・インストラクター(インタラック)</p> <p>(2)実務に役立つ演習2・インストラクター(インタラック)</p> <p>(3)実務に役立つ演習3・インストラクター(インタラック)</p> <p>(4)実務に役立つ演習4・インストラクター(インタラック)</p>	学校事 務職員	7/26 8/23	21
404	栄養教諭・学校栄養職員	<p>■ 食に関する指導についての研修や教材開発等を行い、指導力の向上を図る。</p> <p>(1)幼稚園・保育園における食育について・根津牧子(幸区役所こども支援室)</p> <p>(2)中学校における食育について・野田まなみ(総合教育センター)</p>	栄養教 諭・学 校栄養 職員	8/20	8
405	学校給食調理員	<p>■ 講義や実技演習を通して、食と健康に関する幅広い知識や技能を身に付ける。</p> <p>(1)エコクッキング調理実習・インストラクター(東京ガス)</p> <p>(2)エコクッキング調理実習・インストラクター(東京ガス)</p>	学校給 食調理 員	8/9	28
406	学校用務員	<p>■ 学校用務員の服務及び技術・技能等の研修を行い、その資質の向上を図る。</p> <p>(1)オブジェ作り1・精松雅子(新城小)</p> <p>(2)オブジェ作り2・精松雅子(新城小)</p>	全校種 教職員	7/30	8
407	高校教育	<p>■ ストレスマネジメントの構造やそのスキルを理解するとともに、参加者全員でリラクゼーション法を体験する。</p> <p>(1)生徒のストレスマネジメントについて検証し、学校生活適応感との関連と指導方法の工夫について研修する。・吉田宏(高津高校)</p> <p>(2)ストレスマネジメントの実践法について研修する。・松本清子(駒澤大学コミュニケーションセンター)</p>	全校種 教職員	8/13	26
408	特別支援教育マネジメント	<p>■ 地域の中心的役割を担う、特別支援教育を推進する人材を養成する専門的な研修を行う。</p> <p>(1)特別支援教育の視点に立った子どもの見方・霜田浩信(群馬大学)</p> <p>(2)地域支援コーディネーターに求められるもの・安部博志(筑波大学附属大塚特別支援学校)</p> <p>(3)発達障害に視点を置いた学習支援・渡部匡隆(横浜国立大学)</p> <p>(4)ライフステージに応じた支援のあり方 移行支援計画の考え方・武居光(川崎市西部地域療育センター)</p> <p>(5)校内委員会、ケース会議を活性化させるための手立て(理論編)・原田浩司(栃木県鹿沼市立みなみ小)</p> <p>(6)支援につながる外部との連携・原田浩司(栃木県鹿沼市立みなみ小)</p>	(原則として)特別支援教育コーディネーター養成研修修了者	8/4 8/5 8/6 12/27	75

409	特別支援教育コーディネーター研修	<p>■ 特別支援教育コーディネーターとして校内委員会の活動を推進し、校内の特別支援教育体制を充実したものとする実践力を養う。</p> <p>(1) 発達障害のある子どもの理解に必要なアセスメントの基礎・恵良美津子(白百合女子大学)</p> <p>(2) アセスメントを生かした個別の指導計画の立て方・恵良美津子(白百合女子大学)</p> <p>(3) コーディネーターに必要な教育相談の基礎・菊池けい子(旭出学園養護学校)</p> <p>(4) 特別支援の視点に基づいた教育相談の実技演習・菊池けい子(旭出学園養護学校)</p> <p>(5) 発達障害のある子どもへの学習支援・佐々木徳子(帝京大学教職大学院)</p> <p>(6) 通常の学級における学習支援の工夫・佐々木徳子(帝京大学教職大学院)</p>	(原則として)特別支援教育コーディネーター養成研修修了者	8/3 8/23 12/28	78
410	通級指導教室専門	<p>■ 言語障害の理解や指導・ソーシャルスキルの実践的内容を研修する。</p> <p>(1) ソーシャルスキルの理論と実践・佐藤由加子(星槎中)</p> <p>(2) ソーシャルスキルの理論と実践・佐藤由加子(星槎中)</p> <p>(3) 発達検査を指導に生かす・吉村亜紀(元通級担当者)</p> <p>(4) 発達検査を指導に生かす・吉村亜紀(元通級担当者)</p>	通級指導教室担任等	8/9 8/10	80
411	就学前教育の理解	<p>■ 幼児期からの教育における今日的課題をとらえ理解を深めるとともに、教職員の実践・指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 幼児期から児童期への発達を踏まえた教育の在り方～幼児期における特別な支援をつないでいくために・久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所)</p> <p>(2) 幼小連携での子どもの育ち・和田信行(東京成徳短期大学幼児教育学科)</p>	全校種教職員	8/12 8/20	35

## 5 学校支援研修

501	情報教育校内研修	<p>■ 各学校の要請・要望に応じて情報教育に関する研修を行う。</p> <p>(1) 校務用イントラネット(サインズ) 情報セキュリティ 50infin'ジ'マルチ'等 ICT授業活用研修・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	年間	125
-----	----------	---	--------	----	-----

## 6 教養研修

601	公開教養講座	<p>■ 各分野で活躍している方の講話を聴き、幅広い考えや豊かな人間性を培う。</p> <p>(1) 小原 孝のピアノよ歌え! 音楽講座～音楽はいつも心にやさしい～</p>	全校種教職員 社会教育員 市民	11/6	183
-----	--------	--	-----------------------	------	-----

## 7 夜間利用研修・リクエスト研修

701	夜間利用「ワード2007」	<p>■ ワード2007を利用して基本的な文書作成の方法を研修する。(初級)</p> <p>(1) ワード2007の基礎・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/7	2
702	夜間利用「エクセル2007」	<p>■ 成績処理の表計算やグラフ作成など基本操作を研修する。(初級)</p> <p>(1) エクセル2007の基礎・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/12	3
703	夜間利用「パワーポイント2007」	<p>■ パワーポイント2007を使って文書やイラストの取り込み、アニメーション機能について基本的な研修を行う。(初級)</p> <p>(1) パワーポイント2007の基礎・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/14	7
704	夜間利用「学校・研究会ホームページ」	<p>■ ホームページを作成するためにホームページビルダーを使って、基本的な操作方法や公開までの手順等を研修する。</p> <p>(1) ホームページ作成の基礎・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/19	1
705	夜間利用「情報モラルと情報の取り扱い」	<p>■ 個人情報、著作権、情報モラルについての事例を基にしながら研修する。(初級)</p> <p>(1) 事例を基にしながら個人情報、著作権、情報モラルについて研修する。・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/21	12
706	夜間利用「電子黒板活用」	<p>■ 電子黒板の持つ「画面上で操作する」「画面上に書き込む」「画面を保存する」という基本的な機能を活かした授業活用について研修する。</p> <p>(1) 電子黒板の授業活用・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員	10/26	2
707	夜間利用「校務用コンピュータ活用」	<p>■ 校務用コンピュータのエーロッキーの使い方や運用の仕方を研修する。(初級)</p> <p>(1) 校務用イントラネット(サインズ)の使い方・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	11/4	2
708	夜間利用「デジタル画像編集」	<p>■ コンピュータでの基本的なビデオ編集について研修する。(初級)</p> <p>(1) デジタル動画編集・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員	11/9	2
709	夜間利用「管理職のための学校ホームページ」	<p>■ 学校(研究会)ホームページを管理職として維持管理するための研修を行う。</p> <p>(1) 学校(研究会)ホームページを管理職として維持管理するための研修・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種教職員	11/11	1
710	夜間利用「国語科教育」	<p>■ 新しい学習指導要領の理念を踏まえた国語科の授業実践について、講義及び質疑を通して学ぶ。</p> <p>(1) 新しい学習指導要領の理念を踏まえた実践の在り方・水戸部修治(文部科学省)</p>	全校種教職員	9/1	56
711	夜間利用「算数・数学科における授業改善」	<p>■ 算数・数学の授業作りのポイントを授業記録のビデオを基に研修し、授業力向上を図る。</p> <p>(1) 算数・数学の授業改善1～授業のどこを見るのか～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)</p> <p>(2) 算数・数学の授業改善2～学びあいのある授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)</p> <p>(3) 算数・数学の授業改善3～子ども同士が高めあう授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)</p> <p>(4) 算数・数学の授業改善4～子ども主体の授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)</p>	全校種教職員	6/25 9/7 10/15 1/19	71

712	夜間利用「音楽科教育」 + (ICT授業活用)	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善への具体的な方策を実技・講義を通して研修し、授業力の向上を図る。</p> <p>(1) 箏の初心者基礎奏法と箏を使った創作の工夫 講師：平桜旦山 望月昇子</p> <p>(2) 指揮法講習① 講師：田久保裕一</p> <p>(3) 指揮法講習② 講師：田久保裕一</p> <p>(4) 音響機器の操作・設置・活用と音楽著作権 ～豊かな音質と豊かな発想で鑑賞の授業を～ (ICT授業活用) 講師：斎藤健司(南大師中) 末武佳樹(今井中) 指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	9/3 9/10 9/17 9/24	123
713	夜間利用「不登校対策事例検討」	<p>■ 不登校の具体的な事例の研究を通して、対応の在り方について実践的に研修する。</p> <p>(1) 事例検討(1)・小見祐子(柿の木坂相談所)</p> <p>(2) 事例検討(2)・小見祐子(柿の木坂相談所)</p> <p>(3) 事例検討(3)・小見祐子(柿の木坂相談所)</p>	全校種 教職員	6/10 9/16 1/27	3
714	夜間利用「図工・美術科教育」	<p>■ 図画工作・美術科教育の充実に向け授業改善と指導者の指導力の向上を図るための具体的な方法を実技・講義を通して研修する。</p> <p>(1) 事例検討(1)・小見祐子(柿の木坂相談所)</p> <p>(2) 教材研究と指導の工夫2「目的表現活動での発想指導」 ・相場秀夫(元美術科研究会長)</p> <p>(3) 版画製作(実技研修会)・石田彰一(元図工研副会長)</p> <p>(4) 教材研究と指導の工夫3・清水満久(昭和女子大学)</p> <p>(5) 小中の連携を考える「[共通事項]を手がかりに」 ・佐藤悠子(元小学校長)</p>	全校種 教職員	7/9 10/1 11/12 1/14	69
715	夜間利用「総合的な学習の時間」	<p>■ 総合的な学習の時間における探究的な学習活動の展開の仕方を、具体的な事例の紹介を通して研修し、単元計画を作成するための資質の向上を図る。</p> <p>(1) (2) 探究的な学習展開の仕方を具体的な事例を通して研修し、単元をデザインする資質の向上を図る・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	6/25 6/30	14
716	実践から学ぶ保健室経営 ブラッシュアップ	<p>■ 保健室経営の実践例を基にして各自の保健室経営を見直し、保健室の場と機能を活かした保健室経営をしていくための機会とする。また、実践例から具体的に活用できるものを作成する。</p> <p>(1) 子どもたちの保健活動を広げる保健室経営を考える・鶴代友紀(桜本中)</p> <p>(2) 子どもたちが快適に利用できる環境をめざした保健室経営を考える・内藤志津子(久本小)</p>	養護教諭	10/1 11/26	23
717	土曜利用「事例検討から学ぼう」	<p>■ 健康相談に活かせるようスーパーバイザーの指導の下、抱えている課題を仲間と共有するとともに、課題解決に向けて事例検討会で資質の向上を図る。</p> <p>(1) 事例検討から学ぼう・小見祐子(柿の木坂相談所)</p> <p>(2) 事例検討から学ぼう・小見祐子(柿の木坂相談所)</p>	養護教諭	9/25 1/22	9
718	その他の夜間利用研修・土曜研修	<p>■ その時々課題となるテーマについて、夜間・土曜日を利用し随時研修を行う。</p> <p>(1) 必要に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	年間	—
719	リクエスト研修	<p>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。</p> <p>(1) 要請に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	年間	—

8 必修研修

801	新規採用職員	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1) 研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修</p> <p>(2) 情報機器の活用法、情報モラル・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(3) 学級経営及び児童生徒指導の基本について・東京聖栄大学教授 岡田弘</p> <p>(4) 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社</p> <p>(5) 教科指導、授業の作りの基本についての講義演習</p> <p>(6) 特別新教育の現状と理解について・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(7) 理科指導における安全指導[小]部活動指導中における事故発生時の対応[中]・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(8)～(11) 初任者授業研究・指導主事等(総合教育センター)</p> <p>(12) 宿泊研修オリエンテーション</p> <p>(13)～(16) 宿泊研修・自然体験学習、作業体験学習、テーマ別研修等・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(17) 児童生徒指導、児童生徒とのかかわり・指導主事(各区教育担当)</p> <p>(18) (19) 道徳教育、特別活動の授業参観と研究協議・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(20) (21) 児童生徒指導上の諸問題・指導主事(各区教育担当)</p> <p>(22) 各教科の示範授業参観と研究協議・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(23) 人権に関する市内の実践報告・指導主事等(総合教育センター)</p> <p>(24) 学習指導に関するレポート協議</p> <p>(25) 研修のまとめ、講義・指導主事(総合教育センター)</p>	新規採用教職員	勤務校外研修 年間25回 4/2～ 2/3 宿泊研修を含む 8/2～ 8/5	8550
-----	--------	--	---------	--	------

802	新規採用養護教員	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1)養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導・後藤美智子(総合教育センター)</p> <p>(2)中学校における保健室経営と健康教育の実際・中村百合乃(川崎中)</p> <p>(3)小学校における保健室経営と健康教育の実際・宮澤陽子(西丸子小)</p> <p>(4)健康教育の授業研究に向けて指導案検討・後藤美智子(総合教育センター)</p> <p>(5)健康教育の実際、学校での授業研究・後藤美智子(総合教育センター)</p> <p>(6)保健室経営案と学校保健計画の立案、養護教諭の活動と評価・後藤美智子(総合教育センター)</p>	新規養護教諭	6/28 9/21 10/19 11/4 11/29 12/20	24
803	新規採用学校栄養職員	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1)本市の学校給食の概要・小田貴子(健康教育課)</p> <p>(2)給食業務の進め方Ⅰ・小田貴子(健康教育課)</p> <p>(3)給食業務の進め方Ⅱ・小田貴子(健康教育課)</p> <p>(4)食に関する指導Ⅰ・小田貴子(健康教育課)</p> <p>(5)食に関する指導Ⅱ・小田貴子(健康教育課)</p> <p>(6)食に関する指導Ⅲ・指導主事(総合教育センター)</p>	新規学校栄養職員	4/6 4/15 4/14・ 22 6/8 6/25 12/2	24
804	2年目教員	<p>■ 道徳や特別活動の講義や授業研究を通して学級経営の充実を目指すとともに、教科指導力の一層の向上を図る</p> <p>(1)開校式・服務規律・中西憲子(総合教育センター) 網屋直昭(総合教育センター) 佐藤栄寿(教職員課) 南谷隆行(総合教育センター)</p> <p>(2)特別活動・道徳 講義・指導案作り・川野佳秀(総合教育センター) 辰口直美(総合教育センター)</p> <p>(3)特別活動・道徳 講義・指導案作り・辰口直美(総合教育センター) 川野佳秀(総合教育センター)</p> <p>(4)班別授業研究(特別活動・道徳)・研究会会長</p> <p>(5)班別授業研究(教科 中・高・特・養護)・研究会会長</p> <p>(6)班別授業研究(小)・研究会会長</p>	2年目教員(全校種)	5/7 8/11 11/2 1/18・ 24	1433
805	5年経験者	<p>■ 教員経験を振り返り、直面している教育諸課題について研修し、教員としての力量を高め、各学校の中核としての役割を果たすための資質を磨く。</p> <p>(1)教職員服務規定 班別研修会・佐藤栄寿(教職員課)</p> <p>(2)人権研修 講演会・会沢芳一(横浜市食肉公社)</p> <p>(3)班別レポート研修・指導主事等(総合教育センター)</p>	5年経験(全校種)教職員	6/30 7/30 12/17	511
806	10年経験者	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1)開講式・教職員服務規律研修・研修ガイダンス①・テーマ別研修①指導主事(総合教育センター)</p> <p>(2)研修ガイダンス②講師:千葉大学 天笠茂</p> <p>(3)異校種交流研修ガイダンス・テーマ別研修②:指導主事(総合教育センター)</p> <p>(4)教科教育等研修①:指導主事(総合教育センター)</p> <p>(5)教科教育等研修② 講師:臨床教育研究所 わいわい所長 馬場英顕</p> <p>(6)児童生徒指導研修① 講師:指導主事(各区教育担当)</p> <p>(7)児童生徒指導研修② 講師:指導主事(各区教育担当)</p> <p>(8)学級経営に関する研修 講師:橋谷由紀(西丸子小)</p> <p>人権尊重教育研修 講師:鈴木信一郎(人権・共生教育担当)</p> <p>(9)特別支援教育に関する研修 講師:指導主事(総合教育センター)</p> <p>情報モラルと危機管理に関する研修 講師:指導主事(総合教育センター)</p> <p>(10)帰国・外国人児童生徒に関する研修 講師:日本語指導研究者 菅原雅枝・教育法規 講師:赤松理(教職員課)</p> <p>(11)(12)異校種交流研修(各学校)</p> <p>(13)教科教育等研修③:指導主事(総合教育センター)</p> <p>(14)各教科・特別支援教育・養護教諭に分かれて授業研究:指導主事(総合教育センター)</p> <p>(15)テーマ別研修③・閉講式:指導主事(総合教育センター)</p>	10年経験(全校種)	5/10 6/8 6/25 8/3 8/4 8/5 8/6 11/8 1/5 異校種交流研修9~11月の1日	1,170
807	15年経験者	<p>■ 中堅教員としての企画力、運営力の向上を図り、校内におけるリーダー性を育成する。また、メンタルヘルスや人権尊重についても研修を行う。</p> <p>(1)開講式、「メンタルヘルス」・勤務課職員</p> <p>(2)「人権尊重教育研修」・江間薫(宮前平小) 田中真喜男(藤崎小)</p> <p>(3)「教育研究の進め方」・小林宏己(早稲田大学)</p> <p>(4)服務規律研修、学校組織マネジメント「中堅教員の役割と学校運営」、閉講式・指導主事等(総合教育センター)、教職員課</p>	全校種教職員	7/27 7/28	176
808	20年経験者	<p>■ 学校教育目標実現のために、学校全体を視野に入れて、教育活動を企画・運営するための資質・能力の向上を図る。</p> <p>(1)演習 特別支援教育・吉田宴(総合教育センター)</p> <p>(2)演習 授業研究と校内の人づくり・馬場英顕(臨床教育研究所わいわい)</p> <p>(3)演習 服務規律・赤松理(教職員課) 座談会・演野雄功(商業高校) 棟居謙(長沢小) 山川佳美(下布田小) 高橋花子(南菅中)</p> <p>(4)講演 未来の命の授業・今西乃子(フリーライター) 講話 20年経験者に期待すること・竹田文夫(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/9 8/10	521

809	新任教務主任	<p>■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義、演習等により校務遂行に資する研修を行う。</p> <p>(1) 講話 新任教務主任への期待・前田高幸(枳形中) 演習 公簿類の取扱・布川広(総合教育センター) 演習 学校情報セキュリティ・熊谷顯太郎(総合教育センター)</p> <p>(2) 講話 教務主任の実務・菅原隆宏(大谷戸小) 高嶋幸広(西中原中) 講話 教育法規の運用と解釈・和泉田政徳(教職員課)</p> <p>(3) 授業力向上への取組 講義とグループ演習・白井達夫(鎌倉女子大学)</p> <p>(4) 授業力向上への取組 グループ演習報告・白井達夫(鎌倉女子大学)</p> <p>(5) 学校教育のこれまでの10年、これからの10年・天笠茂(千葉大学教授) 白井達夫(鎌倉女子大学)</p>	新任教務主任	5/7 5/31 7/27 7/29	290
810	新任総括教諭	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る。</p> <p>(1) 総括教諭に期待すること・平井弥三郎(教職員課) 深澤恵(川中島中)</p> <p>(2) 総括教諭として実践したこと・センター指導主事(総合教育センター)</p>	新任総括教諭	4/30 12/24	223
811	教頭研修	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1) 講話「教頭先生に期待すること」・阿部孝夫(川崎市長)</p> <p>(2) 講演「共生・共育について」・岡田弘(東京聖栄大学)</p> <p>(3) 分散会-1「法規研修」・教職員課</p> <p>(4) 学校における法令遵守・坂田仰(日本女子大学教職教育開発センター)</p> <p>(5) 分散会-2「課題研修」・市立学校長(川崎市立学校)</p> <p>(6) 講話「川崎市の人権尊重教育について」・人権・共生教育担当</p> <p>(7) 講演「特別支援教育について」・武居光(川崎西部地域療育センター)</p>	教頭副校長	6/14 7/23 9/10 12/14 1/14	861
812	新任教頭	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1) 実務研修「非常勤講師、臨任の任用」「計画配置パソコン研修」・庶務課、教職員課</p> <p>(2) 講演「教頭の心得」実務研修「休暇制度等の概要」[勤務時間の割り振り]・前田博明(幸区教育担当)、勤労課、教職員課</p> <p>(3) 実務研修「安全衛生、公務災害、健康管理」「夢21事業、特別非常勤講師」・勤労課、指導課担当課長</p> <p>(4) 実務研修「教育予算」[財務事務]・学事課、庶務課</p> <p>(5) リーダー研修「学校の新しい流れ～教視力の連鎖～」・杉尾光明(独立行政法人教員研修センター)</p> <p>(6) リーダー研修「情報モラル、情報セキュリティ」・情報・視聴覚センター(総合教育センター)</p> <p>(7) リーダー研修「分散会による班別討議」・市立学校長(川崎市立学校)</p>	全校種教頭	4/19 4/27 5/6 5/11 6/4 6/17 7/30	366
813	学校経営教頭	<p>■ 広い視野から学校のあり方等について研修し、時代に即した学校経営の方策を探る。</p> <p>(1) 時代に即した学校経営のあり方・坂巻美和子(社員研修研究室)</p>	昇任2年目教頭	8/20	93
814	校長研修	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) これからの外国語教育・直山木綿子</p> <p>(2) 特別支援教育の在り方・霜田浩信(群馬大学教育学部)</p> <p>(3) 笑顔あふれる学校・杉田洋</p> <p>(4) 障害者の権利条約を中心とした新しい社会の考え方・長瀬修</p>	全校種校長	6/3 9/3 12/6 1/31	623
815	新任校長	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1) 講話「学校経営と校長の役割」村上寛(麻生小)「メンタルヘルス」「4手当の認定」勤労課</p> <p>(2) 実務研修「教職員の人事」他・教職員課</p> <p>(3) 講話「人権オンズパーソン」・人権オンズパーソン 講話「学校事故対応と事故処理」・庶務課</p> <p>(4) 班別討議:学校運営の現状と課題・学校教育部</p> <p>(5) 講演「学校におけるコーチング」・大石稜子(夢開発)</p>	新任校長	4/9 5/7 7/28 7/29	181
816	学校経営校長	<p>■ 広い視野から学校の在り方について研修し、時代に即した学校経営の方策を探る</p> <p>(1) 学校組織について・白井達夫</p> <p>(2) 学校を元気にする方法 一組織マネジメントとコーチングを活用して一・千々布敏弥(国立教育政策研究所)</p> <p>(3) (4) 学校経営の基本～管理職にとってのマネジメントの課題～・北神正行</p>	昇任2年目校長	7/21 7/22	132
817	小学校外国語中核教員研修	<p>■ 学習指導要領における小学校外国語活動の目的や内容等を理解するとともに、授業力及び英語での指導力を高め、外国語活動推進のリーダーとして各校内の中心的役割を果たす教員を育成する。</p> <p>(1) オリエンテーション、外国語活動の目標・基本理念の理解・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(2) 指導法ワークショップ① 他・インストラクター(インタラック)</p> <p>(3) 指導法ワークショップ② 他・インストラクター(インタラック)</p> <p>(4) 指導法ワークショップ③ 他・インストラクター(インタラック)</p> <p>(5) 研修報告会および演習・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(6) 研修のまとめ・高橋一幸(神奈川大学)</p>	小学校外国語活動中核教員	4/21 8/11 8/12 1/6 1/7	665
818	小・中学校合同道徳教育	<p>■ 講演会、授業公開を実施し、道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め、小・中学校の連携を深める。</p> <p>(1) 第1回 講演会・上杉賢士(千葉大学大学院教授)</p> <p>(2) 第2回 宮内中学校</p> <p>(3) 第3回 鷺沼小学校</p>	小・中学校教員	7/28 11/17 12/1	622



819	キャリア教育・進路指導	<p>■ 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度をはぐくめるキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質向上を図る。</p> <p>(1) キャリア教育の理解を深め、教員の指導力の向上を図る。・講師 リクルート主任研究員 辰巳哲子</p> <p>(2) 各学校におけるキャリア教育・進路指導の推進を図る。・苅宿小、高津中、橘高校の各実践報告</p>	小・中・高校教職員	9/29 2/18	207
820	人権尊重教育推進担当者	<p>■ 人権尊重教育の動向を理解し、各校の取組から人権尊重教育の推進の研修を行う</p> <p>(1) 全体会「講話」・人権・共生教育担当 分科会「各学校人権尊重教育の重点と推進計画情報交換」</p> <p>(2) 全体会「講話」・指導主事（総合教育センター） 分科会「参加型権利学習の実践」</p> <p>(3) 人権尊重教育推進実践校 校本中 授業報告会 参加 ・人権・共生教育担当</p> <p>(4) 全体会「講話」・人権・共生教育担当 分科会「各学校人権尊重教育の重点と推進報告情報交換」</p>	全校種教職員	5/25 7/6 11/29 2/17	658
821	養護教員	<p>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。</p> <p>(1) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p> <p>(2) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p> <p>(3) アナフィラキシーショックの対応・日隈励（川崎市消防局）</p>	養護教諭	5/26 6/23 12/8	398
822	学校プール安全衛生・蘇生法	<p>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</p> <p>(1) 学校プール安全管理上の留意事項と水質管理・指導主事（総合教育センター）、柳内一（学校薬剤師会）</p> <p>(2) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p>	全校種教職員	4/27 5/25	294
823	小学校夏季体育実技講習会	<p>■ 各運動領域の実技を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る</p> <p>(1) 実技研修を通して、資質の向上と指導法の充実を図る。・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p> <p>(2) 実技研修を通して、資質の向上と指導法の充実を図る。・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p> <p>(3) 実技研修を通して、資質の向上と指導法の充実を図る。・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p>	小学校教諭・新規採用5年未満教諭	7/28 7/29 7/30	930
824	中学校夏季体育実技研修会	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る</p> <p>(1) 各運動種目の実技研修を通して、資質や能力の向上を図る。・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p> <p>(2) 各運動種目の実技研修を通して、資質や能力の向上を図る。・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p>	中学校保健体育科教諭	8/23 8/24	774
825	小学校新規採用教員水泳実技講習会	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る</p> <p>(1) 小学校教員の泳力向上と技術の習得・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p> <p>(2) 小学校教員の泳力向上と技術の習得・川崎市立学校教諭（川崎市立学校）</p>	小学校新規採用5年未満教諭	7/25 7/26	1076
826	小学校音楽科実技研修	<p>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 歌唱実技及び指導法・元小学校音楽研究会 家藤麻佐</p> <p>(2) 器楽実技及び指導法・リコーダー指導者 鈴木英之 ・鍵盤ハーモニカ指導者 高階恵 ・打楽器指導者 大嶽貴穂</p>	小学校新規採用5年未満教諭	8/20	168
827	教育相談宿泊研修	<p>■ 教育相談の考え方や技法を人とのかわりや自己理解を通して体験的に学ぶ。</p>	全校種教職員	8/9 8/10 8/11	171
828	特別支援学級等新担任者	<p>■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る事を目的としている。</p> <p>(1) 開講式 講演・指導主事（総合教育センター）</p> <p>(2) 講演・江幡正継（玉川大学通信教育部）</p> <p>(3) 班別研修・講師（市内小・中・特別支援学校）</p> <p>(4) 班別研修・講師（市内小・中・特別支援学校）</p> <p>(5) 班別研修・講師（市内小・中・特別支援学校）</p>	特別支援学級等の新任者	4/21 5/19 6/16 9/22 1/19	710
829	特別支援学級等新担任者2年目	<p>■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした必修研修</p> <p>(1) 開講式 班別研修・（市内小・中・特教諭10名）</p> <p>(2) 講演「子どもの見方1」・土谷良巳（上越教育大学）</p> <p>(3) 班別研修・（市内小・中・特教諭10名）</p> <p>(4) 講演「子どもの見方2」・土谷良巳（上越教育大学）</p> <p>(5) 講演「子どもの見方3」・土谷良巳（上越教育大学）</p>	小・中・特別支援学級等2年目の担任	8/4 8/5 8/6	363

830	特別支援教育コーディネータ養成	<p>■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。</p> <p>(1) ガイダンス・高木幸江(総合教育センター)</p> <p>(2) 「特別支援教育を進める教育相談」高橋あつ子(早稲田大学大学院)</p> <p>(3) 「担任ができる教室内支援の具体的な手立て」白倉節子(所沢市立上新井小)</p> <p>(4) 「特別支援を必要とする子どもの心を探る」鎌田好子(市原市立五井中)</p> <p>(5) 「特別支援教育における他機関との連携、コーディネーターの役割」霜田浩信(群馬大学)</p> <p>(補) 「インシデントプロセス法を参考にした事例検討」高木幸江(総合教育センター)</p>	小・中・高・特の初めての特別支援教育コーディネーター	5/21 7/29 7/30	265
831	通級指導教室新担任者等	<p>■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修</p> <p>(1) 通級指導教室の概要・増田亨(田島養護学校) 吉村亜紀(NPO法人らんぷらざ)</p> <p>(2) 障害の理解と支援・吉村亜紀(NPO法人らんぷらざ) 三島節子(LD発達相談センターかながわ)</p> <p>(3) 具体的な指導計画と指導・吉村亜紀(NPO法人らんぷらざ) 笹森すみえ(久本小)</p> <p>(4) アセスメントと指導の実際・三島節子(LD発達相談センターかながわ) 吉村亜紀(NPO法人らんぷらざ)</p>	通級指導教室を初めて担任する教員等	4/9 4/16 4/21 4/30 5/11 5/21	180
832	医療的ケア	<p>■ 講義や演習を通して必要な医療的知識や技術を習得する。</p> <p>(1) 非医療職と医療的ケア・島田珠美(訪問看護師)</p>	田島養護学校教員	6/23	70
833	中学校数学科初任者教員指導力向上	<p>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 魅力ある授業作り・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)</p> <p>(2) コンピュータを活用した授業作り・地亀善敬(玉川中)</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のとらえ方・中町喜友(今井中)</p> <p>(4) 数学・理科のつながりを考えた授業作り・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(5) 海外の数学教育・金田昌之(西生田中)</p> <p>(6) 学習指導要領の理解・榎原真也(総合教育センター)</p> <p>(7) 市内数学科について・数学科常任委員他</p> <p>(8) 市内中学校数学科研究チームの紹介・数学科研究チーム長</p> <p>(9) 小学校算数の授業作り・蟻生寛郎(上丸子小)</p> <p>(10) 初任者指導力向上研修のまとめ・榎原真也(総合教育センター)</p> <p>(11) 中学校授業研究会・下田照雄(川崎中)</p> <p>(12) 中学校授業研究会2・下田照雄(有馬中)</p> <p>(13) 中学校授業研究会3・下田照雄(王禅寺中央中)</p>	中学校数学科初任者	7/23 7/26 8/18 8/20 1/6	230
834	中学校理科初任者教員指導力向上	<p>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修等を実施し、早期に指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 実験実習①②③④・鈴木克彦(白鳥中)</p> <p>(2) 実験実習⑤⑥⑦⑧・鈴木克彦(白鳥中)</p> <p>(3) 実験実習⑨⑩⑪⑫・鈴木克彦(白鳥中)</p> <p>(4) 実験実習⑬⑭⑮⑯・鈴木克彦(白鳥中)</p> <p>(5) 地学研修・成川秀幸(川崎市青少年科学館)</p> <p>(6) エネルギー環境研修 施設視察・大内敏史(財団法人日本生産性本部)</p> <p>(7) 天体観測研修・米倉竜司(川崎市青少年科学館)</p> <p>(8) 先端科学技術研修・藤嶋昭(神奈川科学技術アカデミー)</p> <p>(9) 先端科学技術研修・日立ハイテク(日立ハイテク)</p>	中学校初任者理科	7/21 7/22 7/26 7/27 8/19 8/20 11/10 12/1 12/27	90

### 3 情報教育

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」「校務の情報化」を推進するために市立学校の ICT 機器の活用推進、また、学校教育用ネットワーク（ケインズネット、サインズ、川崎市図書館総合システム）の運用管理、情報教育を推進するために児童生徒の情報活用能力の育成および教員の ICT 活用指導力の向上をめざした研究・研修を行ってきた。

#### 1 教員の ICT 活用指導力の向上を図るための研修の実施

##### (1) 夏季研修

文部科学省の「教員の ICT 活用指導力」の新評価基準に対応した研修を行った。

次に研修講座番号、研修講座名、実施回数（参加延べ人数／定員延べ人数）を示す。

101ICT活用初級(ワード 2007)	1回(26/74)	106 デジタル画像入門	2回(54/74)
102ICT活用中級(ワード 2007)	2回(112/144)	107 情報モラル教育	1回(9/36)
103ICT活用中級(エクセル 2007)	4回(262/144)	108 学校・研究会ホームページ作成	4回(61/144)
104ICT活用初級(パワーポイント 2007)	1回(44/74)	109 校務用コンピュータ活用	1回(6/36)
105ICT活用中級(パワーポイント 2007)	2回(63/144)		

研修後の受講者のアンケートでは、授業に役に立つ研修であったとの評価がとて多かつた。

また、研修内容を実際に授業等で実践し、指導力がアップしたとの報告も多い。

##### (2) 夜間利用研修講座

内容と講座数も精選し、管理職のための学校 Web ページ研修、校務用コンピュータ・暗号化ソフトの活用支援研修等を今年度も引き続き開設した。実施回数（参加延べ人数）

701 ワード 2007	1回(2)	706 電子黒板活用	1回(2)
702 エクセル 2007	1回(3)	707 校務用コンピュータ活用	1回(2)
703 パワーポイント 2007	1回(7)	708 デジタル画像編集	1回(2)
704 学校・研究(部)会 Web	1回(1)	709 管理職のための学校 Web	1回(1)
705 情報モラルと情報の取扱い	1回(12)		

センター内の研修室の機器入れ替えにより、今年度は後期の 1 回のみとした。そのため昨年度より参加者が少なかった。夜間研修の講座内容、周知方法を検討し、今後も参加呼びかけを続けたいと考える。

##### (3) 情報教育校内研修（出前研修）

コンピュータや ICT 活用、情報セキュリティに関して、学校や教員の要請に応じて行う研修で、指導主事が学校を訪問したり、希望者がセンターに来所したりして教職員のスキルアップに対応した。実施回数（参加延べ人数）

501 情報教育校内研修（出前研修）	13回(322人)		
（内訳）・校務用コンピュータ活用	4回(130)	・ホームページ関連	3回(12)
・情報セキュリティモラル	2回(68)	・ICT 機器活用	4回(112)

平成 21 年度と比較すると、研修回数・参加人数は減少した。これは、校務用コンピュータの操作方法が一段落したことや学校 ICT 活用支援員により、校内研修が開かれていることによるものと思われる。

#### 2 情報教育の充実に向けた研究の推進

ケインズネットおよび学校に整備された ICT 機器の有効活用、教員の ICT 活用指導力の向上、ネットいじめに代表される情報化の影の部分に対応した情報モラル教育を推進するための研究を行った。また、「わかる授業」の実現に向けた学習指導案やコンテンツ、ビデオ映像教材の開発、Web 教材等の提供を図った。

#### (1) 指導主事研究

研究テーマは、「電子黒板の効果的な授業活用に関する研究－教員の ICT 活用指導力チェックリストを視点にして－」として研究を行った。平成 21 年度補正予算で整備された電子黒板の研究モデル校（全クラス整備）の実践研究を土台にして、各校 1 台の電子黒板の有効的な授業活用のモデルについて研究を進めた。今後も授業力向上に向けた ICT 活用を視点にした継続的な研究が求められている。また、昨年度に引き続き、「5 分でわかる情報モラル教育 Q & A」の改訂版を作成し、全学校に配付した。日々変化していく情報社会において今後も情報モラル教育についての継続的な研究を行っていく。

#### (2) ICT 教育利用研究会議（指導主事と研究員）

「学びの質を高める授業のあり方 ～ICT 活用による授業改善～」をテーマに、指導主事と研究員で研究を行った。拡大提示（可視化）を従来の授業スタイルにどのように組み込み、何が改善できるのかを明らかにし、その効果を検証した。また、「何（コンテンツ）を、どの場面で、どのように提示するのか」を工夫していく中で、「日常的な ICT 活用と学力向上」についても研究を深めることができた。

#### (3) 共同研究（センターと学校）

金程中学校の研究テーマ「『授業に生かせる ICT 活用をめざして』 ～新たに入った機器の活用～」を基に、学校における情報教育の実践的研究を行った。共同研究で、より学校と密着した実践的研究を行うことができた。

#### (4) ICT 機器活用調査

各学校に整備している ICT 機器の設置状況並びに活用状況を調査するとともに、国の教育の情報化の動向、他自治体での事例等について俯瞰的に調査し、川崎市における ICT 機器活用に係る課題や解決に向けた方向性をまとめた。

### 3 市立学校及び総合教育センターの ICT 機器の計画的整備

#### (1) 総合教育センターサーバ入替

業務システムの構築、データベース、イントラネット及びインターネット増強に伴うネットワーク回線の高速化並びに大容量化に対応できるネットワークシステムのサーバ群の構築を行った。リバースプロキシサーバの導入により、一人一台となった校務用コンピュータからケインズネットの指導致案等様々な情報が閲覧できるようになり、利便性が増した。

#### (2) 校務用サーバ増強（校務システム調査・研究）

6 月に一人一台の校務用コンピュータの整備が完了した。この環境を活用し校務の情報化をすすめるために、川中島小学校、高津中学校と共同で、グループウェアおよび、校務システム導入に向けての調査・研究を開始した。

今後、全校へのシステム導入に向けて、活用方法について検討をしていきたい。

#### (3) 学校インターネット回線の超高速化（光回線）順次整備

4 3 校の学校インターネット回線を ADSL から光回線に切り替え、累計 142 校が超高速回線（平成 21 年度より実施）となった。回線の使用頻度も高まり、全学校の高速化が急がれるところであるが、平成 24 年度までには全市完了を予定している。

#### (4) 第 2・3・4 研修室機器入替

平成 17 年に導入した、第 2・3・4 研修室の機器入替を行い、コンピュータを最新のものにするとともに、電子黒板や研修等で活用するノート型コンピュータの充実を図った。今後も教員の ICT 活用指導力を高めるために、有効活用を図りたいと考える。

### 4 川崎市教育情報ネットワーク（ケインズネット）の活用促進

活用されるセンターの一環として、ケインズネット、データベース、Web ページの活用促進にむけて次のような業務を推進した。

#### (1) 教育情報データベースの充実

開所時から構築を進めてきた教育情報データベースについての件数は以下のとおりである。今年度より、校務用コンピュータから本データベースを検索できるようにし、蓄積してきたデータベースの活用が促進された。

- ① 教育関係資料データベースの一次情報 19,526件
- ② 教育関係資料データベースの二次情報 105,531件

#### (2) 学習指導案データベースの充実と活用促進

平成17年12月より、教員が必要とする学習指導案やワークシート、資料を学校のコンピュータから検索して、引き出せるように教科等の指導主事と連携して登録数を増やしてきた。また、今年度より校務用コンピュータからの検索、取り出しが可能になったことにより指導案データベースの活用が促進された。

- ① 登録指導案件数 2,755件
- ② 添付資料件数 3,700件
- ③ 利用件数 1,714件（平成22年10月1日から平成23年3月31日まで）

#### (3) 学校、研究(部)会 Web ページ新規・更新・充実への支援

すべての市立学校の Web ページをインターネットに公開することを目指してきた。現在の Web ページ立ち上げ状況は次のようである。

- ① 学校 Web ページ(インターネット公開 177校 100%達成)
- ② 研究(部)会 Web ページ(インターネット公開 20 イン트라ネット公開 31 計 51) 残 10 機関
- ③ 学校評価に関する資料を Web ページで公開している学校数 57校

また、4月から半年間、国の緊急雇用創出事業による「学校 ICT 活用支援員配置事業」を実施し、学校のホームページの更新や公開に支援を行ったところ、ホームページ更新の頻度があがった。

#### (4) 総合教育センター Web ページの更新・充実

センター Web ページには、イントラネット版とインターネット版があり、今年度は特にイントラネットのコンテンツの整理を図った。また、一人一台となった校務用コンピュータからケインズ web ページ上の申請書等の閲覧および、電子問題集の利用を可能とした。

#### (5) 川崎市図書館総合システムの有効活用

今年度7月からは中学校の運用が始まり、中学校担当者を対象とした研修を行った。図書館総合システムがより有効活用できるよう、回線の不具合に対応したりシステム改善を提案したりしてきた。次年度は、特別支援学校の運用がスムーズに稼動するようシステムとの連携を慎重に進めていく。

#### (6) ICT 活用支援員の派遣

4月から9月までの半年間にわたり、小学校・中学校・特別支援学校に対して、延べ1234回の ICT 活用支援員の派遣を行った。主な業務内容は次のようである。

- ① 学校ホームページの作成・更新サポート
- ② ICT 活用授業の実施サポート
- ③ コンピュータや電子黒板などの周辺機器の操作に関するサポート
- ④ 教材作成やアプリケーション操作に関するサポート

派遣事業終了後、学校から事業の継続を求める声が寄せられており、次年度も事業の継続することを検討したい。

### 5 川崎市学校校務用イントラネットシステム(サインズ)の活用促進及び機能強化

今年度、高校にも校務用コンピュータが整備された。センターでの研修や出前研修を通して、操作方法・情報セキュリティ・重要情報の一元管理についての重要性を説明した。

#### (1) スマートアンケート機能

各室から学校への各種調査を、アンケート形式で回答するものであり、すでに、「情報モ

ラル教育に関するアンケート」、「校務用コンピュータに関するアンケート」、「特別支援教育に関するアンケート」を実施している。今後も、有効活用を図っていく。

(2) ID管理機能

平成 21 年度末よりスタートし、紙による処理作業の効率化が図られている。今後も周知徹底を図り、年度末等のID情報の変更がよりスムーズにできるようにしていく。

(3) 表題管理システムの稼働

センター発行の文書について、検索機能を活用し閲覧・取り出しができるようにした。今後も、各室からの文書登録を呼びかけ、また、教職員への周知を行い有効活用を図っていく。

## 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

個人情報等の流失防止の観点から教職員の情報モラルの徹底に取り組んだ。市立学校に整備されたコンピュータやネットワークのセキュリティ向上に努めた。また川崎市PTA連絡協議会に出向き8回の情報モラル研修を実施した。

(1) 情報流失防止に関する活動

初任者研修会をはじめ、様々な研修において個人情報保護の大切さと、個人情報の取扱いについて訴えてきた。また、全国で起きている個人情報流出事故を分析し、流出対策の一環として注意喚起の文書を配布した。

(2) コンピュータウイルス対策に関する活動

コンピュータウイルスを感知して駆除した学校数は、昨年度の約半分にまで減少した。発生した場合にはその都度、学校に状況を確認して対策方法を指導している。今後も、研修会や文書等で対策依頼や発生時の連絡方法等について徹底を図りたい。

## 7 情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営

業務の円滑な運営のために学校や保守業者等との各種会議、委員会において、ケインズネット、学校整備コンピュータの充実と有効活用、情報セキュリティ、視聴覚教材・機器貸出業務の運用等について連絡・調整を行った。

- |                               |                                  |
|-------------------------------|----------------------------------|
| (1) 情報化推進協議会(校長会・学校) 3回       | (6) 情報化推進担当者会議(センター各室) 11回       |
| (2) 情報教育学校担当者会(全学校) 3回        | (7) 教文及び市民館視聴覚担当者会議 1回           |
| (3) 情報収集活用委員会(研究(部)会) 1回      | (8) 高等学校学務システム検討会議 3回            |
| (4) 保守定例会(コンピュータ機器保守業者) 5回    | (学校業務効率化検討委員会の1つのワーキンググループに位置付け) |
| (5) ネットワーク定例会(ネットワーク保守業者) 11回 |                                  |

## 8 総合教育センターの機器及び研修室利用実績

今年度の利用実績は次のとおりである。

(機器利用実績)

① ビデオ編集機	33件	148時間
② ダビング機	62件	164時間
③ カラーコピー機	93件	
④ ノートPC	184件	
⑤ プロジェクター	106件	
⑥ ビデオカメラ	116件	

(研修室利用実績)

① 第2研修室	104件	443時間
② 第3研修室	132件	468時間
③ 第4研修室	187件	706時間
④ コンピュータ研修室	71件	244時間

## 4 視聴覚教育

視聴覚センター機能として、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の一層の推進、第28回を迎える「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

### 1 視聴覚センター事業の推進

市内7つの視聴覚ライブラリーを調整する視聴覚センターとしての事業を推進した。

#### (1) 視聴覚ライブラリーの運営

教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週3回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

#### (2) 視聴覚教材機材等の整備・貸出

今後の課題はこれまでに貸出している機器類の補修である。

※センターからライブラリーへの視聴覚教材の貸出状況は以下のとおりである。

教 材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
16mmフィルム	本数	3	1	30	42	21	0	10	5	56	0	5	15	188
ビデオ	本数	39	22	123	267	195	38	61	31	111	63	27	10	987
その他	本数	4	6	16	33	103	25	16	15	23	4	7	9	261
計	本数	46	29	169	342	319	63	87	51	190	67	39	34	1,436

### 2 平和・人権に関する視聴覚教材の選定・購入

平和教育教材等選定委員会を12月7日に開催し、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定、14作品を購入した。

### 3 第28回わが町かわさき映像創作展の開催

わが町かわさき映像創作展は28回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。また、表彰式及び上映会については2月26日(土)に実施した。

- 応募期間 平成22年10月1日～平成23年1月14日
- 応募総数 27点 (一般応募作品15点・研究会推薦作品12点)
- 審査員 6名
- 表 彰
  - ・グランプリ 1点(賞状・トロフィー)
  - ・金 賞 1点(賞状・楯) ・奨励賞 6点(賞状)
  - ・銀 賞 2点(賞状・楯)
  - ・優秀賞 4点(賞状・楯)

○表彰式 平成23年2月26日(土)

○入賞作品

グランプリ

「わたし達のお米作り大作戦」 作者 岡上小学校 お米ネットワーク 片岡義順

金賞

「太陽クラスのなかまたち」 作者 南百合丘小学校 3年1組 山里昌士

銀賞

1「気持ちの良い朝を～宮中ネットワーク815～」 作者 宮前平中学校放送部 佐野朋子

2「伝統を受け継ぐ ～菅の獅子舞～」 作者 菅中学校放送委員会 川上 賢

#### 優秀賞

- 1 「ある少年の成長記録 ～葛西の熱血クッキング～」  
作者 川中島中学校放送部 細谷直史
- 2 「おいしくそだってね ☆おいもちゃん！」 作者 平小学校 福山 創
- 3 「若返れ西中」 作者 西生田中保健委員会 川瀬晴美
- 4 「私の戦争体験」 作者 宮崎安好

#### 奨励賞

- 1 「学校探検」 作者 岡上小学校 21年度放送委員会 黒田俊介
- 2 「有馬小を紹介します」 作者 有馬小学校 5年 大原悠二
- 3 「みんなちがってみんないい」 作者 京町中学校 菅原奈々
- 4 「ようこそキネマハウスへ」 作者 川崎キネマサークル
- 5 「委員会紹介 The 1st 音楽委員会」 作者 川崎市立平小学校放送委員会 有志
- 6 「ジュニアクラブ探検」 作者 はるひ野小学校 村上大樹

#### 4 16mm映写機操作技認定講習会

16mm映写機操作技術認定講習会を市民館等で、下記の日程で開催した。夏休み前の映画会開催準備の位置づけとしての講習会である。

- ① 6月 6日(日) 麻生市民館 23名
- ② 6月20日(日) 教育文化会館 10名
- ③ 7月11日(日) 高津市民館 23名

#### 5 映像教材の開発と提供

昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。今後も教材の充実を図っていく。

(今年度開発した映像教材)

- ① かわさきマイスター
- ② 映像のまち・かわさき 「小学校での映像制作の取り組み」の紹介
- ③ 読書のまち・かわさき 「かわさき読書の日のつどい」の紹介



## 5 特別支援教育

特別支援教育センターでは、川崎市における特別支援教育体制充実に係わる諸事業の推進と特別な教育的ニーズのある児童生徒本人及びその保護者、教職員等の教育相談や就学指導、特別支援教育に係る教職員等への研修、研究活動の充実等を図った。平成22年度の事業の概要は次のとおりである。

### 1 特別支援教育に関する相談・支援の状況

(表1)平成22年度 来所相談件数と終結件数

#### (1) 相談件数

##### ① 来所相談

平成22年度の相談件数は、表1の通りである。平成21年度と比較すると新規相談件数は79増、継続は311増加しており、過去最高の件数となった。

	件数	終結件数
継続	1, 190	489
新規	969	476
計	2, 159	965

(表2) 主訴別新規来所相談件数

	幼児	小学生	中学生	その他	合計
知能・学業	0	150	35	1	186
性格・行動	0	146	25	3	174
進路・適性	390	120	33	3	546
身体・神経	0	24	5	3	29
他	0	23	8	0	34
合計	390	463	106	10	969

表2の主訴別新規来所相談件数を見ると、21年度に比べると、知能・学業より性格・行動、進路・適性に関する相談が増加している。特に就学にかかわる相談(幼児)が390件で全体の40.2%となっている。就学に際し、子どもの特性に応じた教育の場を考えていきたいとする保護者が相談を希望することが増えてきたと考えられる。

表3の障害別新規来所相談では、22年度も情緒障害、自閉、学習障害、ADHDが計621件と相談が多く、全体の64%に上った。

(表3) 障害別新規来所相談件数

知的障害	246
視覚障害	3
聴覚障害	13
言語障害	6
病虚弱	11
肢体不自由	24
情緒障害	406
重複障害	14
自閉	182
学習障害	8
ADHD	33
その他	23
合計	969

##### ② 学校コンサルテーション

来談者が教員の理解や学校の指導方法に対して疑問等を抱く場合、相談機関が関わりあいながら、子どもと保護者、学校への支援を進めていくことは、ますます必要となっている。担任をはじめ管理職、特別支援教育コーディネーター、教科担当、養護教諭などとの共通理解をとおして、子どもへの理解を深め、より適切な支援指導を行えるように努めた。

##### ③ 電話相談

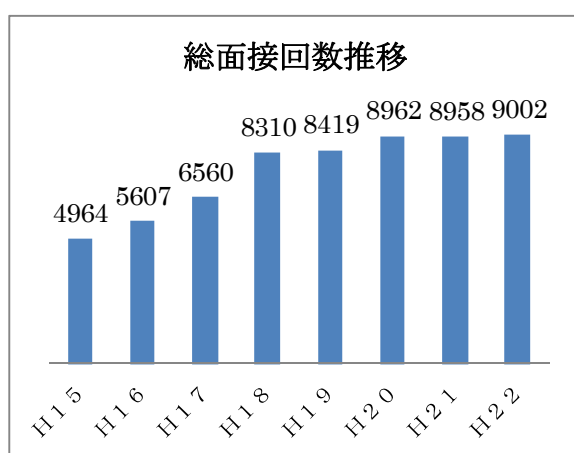
特別支援教育に関する電話相談は、教育相談室の電話による教育相談の項に含まれているの

で、その項を参照していただきたい。

## (2) 面接回数

(表4) 平成22年度 月別・対象別 総面接回数

対象/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
親	230	303	416	467	441	457	467	505	460	434	500	425	5,105
子	134	166	316	292	314	282	276	328	301	231	325	259	3,224
コンサル テー ション	来所	5	23	26	26	33	20	36	46	39	43	46	376
	訪問	14	23	32	23	15	39	24	26	41	35	13	297
合計	383	515	790	808	803	798	803	905	835	739	880	743	9,002



総面接回数は、15年度4,964回から20年度8,962回に年々増加し、その後3年間約9,000回を推移している。平成16年度から始まった特別支援教育制度に向けた取組の中で、保護者や教職員の障害に対する考え方の変化や、特別支援教育への関心の深まり等も背景にあると考えられる。同時に校内支援体制の進展に伴い、特別支援教育センターでの相談に至らないようになったと考えられる。

\* 「平成21年度事業報告書」P. 35 (表4) 「平成21年度 月別・対象別総面接回数」の計は8,958回の誤りである。

## (3) ABC けんさ(Assessment of Basic Skills for Challenged Individuals 職業能力適性評価)

当検査は、行動観察や各種の検査を行い、生徒一人一人に応じた適切な学習課題を見つけることや進路指導に役立てること、また個別の教育支援計画を立てるための資料として活用することなどをねらいとして、平成9年度から当センターにおいて実施している。

対象は、市立養護学校、田島養護学校、聾学校高等部の1～2年生であり、基本的に1年生の時に心理検査を、2年生の時に作業能力検査を行った。

心理検査は当センターの職員が学校に訪問し、作業能力検査は当センターの諸施設を使って実施している。

(表5) 参加生徒数

市立養護	70人
田島養護	48人
聾学校	4人
計	122人

## 2 特別支援教育に関する体制・支援の充実

### (1) 就学指導(相談)の充実

#### ① 就学指導委員会の運営

年間3回の就学指導委員会、7回の専門部会を開催し、294件の審議を行った。

(聾学校小学部1、知的障害養護学校小学部11、知的障害養護学校中学部51、肢体不自由養護学校小学部9、肢体不自由養護学校中学部12、重複障害特別支援学級20、特別支

援学級187、その他3)

養護学校の過密化への対策、障害の重複化・多様化に対応できる施設設備等の整備を含めた保護者の意向と就学先の調整、県立養護学校と市立養護学校等との学区域の調整など課題が多い。

① 地域就学支援関係機関連絡会・就学説明会

就学相談の業務については南・中・西・北部各地域療育センター、指導課等と連絡会議をもち情報交換など連携を図った上、各療育センターにおいて、また、療育センターを利用していない保護者を対象に教育会館・多摩市民館において就学についての説明会を行った。

② 中学校・特別支援学校進路相談連絡会

特別支援学校高等部(知的障害教育部門)の入学者選抜制度について、県の方針が「前期選抜」「後期選抜」、志願資格に「地域指定」を設けての実施となったため、本市においても中学校特別支援学校連絡会との連携を図り、事前の進路指導や調整に努めた。

③ 通級指導教室対象児童生徒入級審査会の運営

通級指導教室の利用者の増加に伴い、新たに真福寺小学校、御幸中学校に通級指導教室(情緒関連)を設置した。年間9回の通級指導教室入級審査会を開催し、606件の審議を行った。22年度現在、通級指導教室(言語)が7教室、(情緒関連)が9教室、(聴覚)が1教室あり、指導課、センター担当者と合同の審査会を行い、地域・学校種別に3グループに分かれて協議した。

④ OT研修

作業療法士が、市立養護学校・田島養護学校・聾学校及び重複障害特別支援学級(たんぼぼ学級)のある大戸小学校・稲田小学校・麻生小学校、さくら小学校重複障害グループを巡回し、機能訓練を実施した。

## (2) 特別支援教育体制充実事業の推進

川崎市立の小・中学校及び高等学校の通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒に対する学校としての支援体制整備を図るために、特別支援教育体制充実事業を実施している。

22年度は、小、中、高、特別支援学校において、初めて指名を受けたコーディネーター教職員に、コーディネーター養成研修を年6回実施し、受講修了者は70名であった。また、各校へは臨床心理士を巡回相談員として年間167回分の計画派遣を行い、特別支援教育に熟達した退職教員を巡回指導員として年間264回派遣した。更に、全校のコーディネーターを対象に特別支援教育コーディネーター連絡協議会を年間4回開催し、特別支援学校地域支援部との連携や各校の情報交換等を図った。

各学校においては、全校に特別支援教育校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名が共に100%となっている。22年度校内委員会で協議された児童生徒数は、5,685名(全児童生徒総数の5.63%)で、前年度の1.6倍であった。今後も、学校を支える地域資源(巡回相談員・巡回指導員・特別支援学校地域支援部・通級指導教室・学生派遣など)の体系的運用システムや、エリア支援システム等について協議していきたい。

### **(3) 特別支援教育サポート事業**

NPO 教育活動総合サポートセンターにおける特別支援サポーターへの研修を4回実施。特別支援教育サポート事業の推進に努め、小学校105校288名、中学校38校58名を配置した。

## **3 特別支援教育推進計画の推進**

「川崎市特別支援教育推進計画」「かわさき教育プラン第2期実行計画」に基づいた以下の事業を展開した。

### **(1) 小・中・高等学校における特別支援教育の推進**

22年度は、校内委員会で協議された児童生徒数は、合計5,685名(全児童生徒総数の5.63%)と前年度の3,496名(3.54%)を大幅に上回り、担任が子どもの困り感に気づく比率が向上している。各校の相談窓口の明示や広報発行については前年度より多くの学校が取り組んでいる。一方、小・中学校、高等学校において校内委員会を定期的に開催する比率が下がっているが、これは必要に応じてケース検討することが校内で定着してきたものと考えられる。外部との連携については、巡回相談員、巡回指導員、特別支援学校地域支援部の学校派遣等、各学校からの支援要請の多様化も見られてきた。

### **(2) 特別支援学校の機能拡充と特色ある学校づくり**

県立を含む7校の特別支援学校による「特別支援学校地域連絡会議」を3回開催し、支援地域の分担や支援内容を明確にした上で、特別支援学級への支援116回、通常の学級への指導支援238回、公開研修(40講座)等を実施した。

医療的ケアについては、田島養護学校において看護師を配置し、職員研修1回、担当職員研修1回(実技研修のフォローアップ)、看護師研修2回(講義と重症心身障害児施設ソレイユ)等を実施した。

### **(3) 特別支援学校・重複障害特別支援学級の適正配置の検討**

特別支援学校再編整備検討委員会を開催し、特別支援学校3校・重複障害特別支援学級の今後の在り方について検討を行った。平成23年度、聾学校内に養護学校高等部分教室を設置、田島養護学校は知肢併置の特別支援学校に向けて、また大戸小学校及び稲田小学校の重複障害特別支援学級は養護学校小学部の方向で再編整備することとなった。

### **(4) 乳幼児期から学校卒業後まで一貫した相談支援体制について**

特別支援連携協議会(機関横断型の障害のある子どもの継続した相談・支援体制を検討)に参加し、サポートノート(個別の教育支援計画)の理解啓発と普及等について協議した。

### **(5) 特別支援教育に関する諸課題の研究協議に関すること**

特別支援教育問題研究協議会を年4回実施し、特別支援教育推進計画、特別支援教育体制充実事業等の進捗状況、一貫した相談支援体制のあり方等について協議を行った。

## **4 特別支援教育の研修・研究の充実**

### **(1) 必修研修・専門研修**

必修研修として特別支援教育コーディネーター養成研修の他に、文部科学省の必修研修である特別支援学級等新担任者研修167名の他、特別支援学級等新担任者2年目研修83名通級指導教室新任者研修30名を必修研修として実施した。

また、特別支援教育校内研修は、計10回の申し込みがあり325名の教職員が受講した。昨年度より申し込み数が減少したが、これは各学校で発達障害の理解と実態把握等、特別支援教育の基本的な知識を得たと感じているためと理解している。今後は事例検討やユニバーサルな授業等、より専門的な研修のニーズが高まることが考えら、それぞれのニーズに応えるために知識や情報の集積が求められている。

## **(2) 特別支援学校連携研修**

市内特別支援学校において、希望研修として「発達障害のある子どもの理解と支援研修」及び「特別支援教育専門研修」等23講座1,260名の参加であった。

## **(3) 指導主事研究、研究員研究会議**

指導主事研究として「通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対する特別支援教育体制の整備」をテーマに設定した。コーディネーターへのアンケート調査による各校の実践状況の把握や専門家チーム会議との有効な連携システムの構築、高等学校における特別支援教育の体制について研究を進めた。次年度の特別支援教育体制充実事業の方向性を検討に資することができた。

長期研究員として、「通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方『個』への支援を生かした、学び合う『学級集団』づくり」について、実践に基づき研究を行った。

また、研究会議を設置し、「川崎市における特別支援学校の地域支援のあり方」をテーマに特別支援学校の地域支援について課題や今後の方向性について研究を行った。

## **5 その他**

心理臨床相談にかかわる学生2名の実習を受け入れた。

## 6 教育相談

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への援助、また、その一環として、「さいわい」「たま」「あさお」「みゆき」「なかはら」の5カ所のゆうゆう広場（川崎市適応指導教室）の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行っている。さらに、17年度からはスクールカウンセラー配置事業、不登校対策推進事業「フレンドシップかわさき」、19年度からは、学校巡回カウンセラー事業、「問題を抱える子ども等の自立支援事業」も行っている。

### 1 教育相談事業の実施状況

#### (1) 来所面接相談の実施状況

##### ① 来所面接相談総件数

表1は平成22年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談総件数391件の内247件が平成23年度に継続されることになった。

〔表1-1 平成22年度 来所面接相談総件数と終結件数〕

	相談件数			終結件数			平成23年度への継続件数		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
継続	128	150	278	59	59	118	69	91	160
新規	51	62	113	16	10	26	35	52	87
合計	179	212	391	75	69	144	104	143	247

〔表1-2 表1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談総件数と終結件数（再掲）〕

		相談件数			終結件数			平成23年度への継続件数		
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
不登校	継続	91	108	199	41	41	82	50	67	117
	新規	28	36	64	8	5	13	20	31	51
いじめ絡み	継続	8	7	15	4	7	11	4	0	4
	新規	6	4	10	1	1	2	5	3	8

##### ② 来所面接相談面接総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については10日以内に担当者から連絡し、できるだけ早い対応に努めている。また、ゆうゆう広場での特徴を正しく理解した上で通級してもらうために、見学したいという不登校児童生徒や保護者を対象に専任教諭が中心となり事前相談を実施している。

〔表2 月別、対象別 来所面接相談総回数〕

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		来所面接 相談室	保護者	202	256	260	251	238	259	272	268	267	263	
子	105		120	125	133	136	136	157	145	133	155	143	84	1,572
教職員	1		1	0	2	2	1	1	0	1	1	0	0	10
ゆうゆう 広場	事前相談	13	12	30	17	3	19	12	18	9	8	10	12	163
	通級相談	1	6	14	4	7	7	14	12	5	2	4	7	83
	保護者	15	19	21	30	10	37	21	34	35	39	41	43	345
	子	1	4	5	1	1	2	2	2	3	2	5	3	31
合計		338	418	455	438	397	461	479	479	453	470	481	324	5,193

③ 教職員への出張相談（学校コンサルテーション）

表3に示した学校コンサルテーションは、学校からの要請等により指導主事等が学校を訪問し、教職員を対象にして行う相談のことである。

〔表3 月別、教職員への出張相談回数〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	0	0	2	0	0	2	2	2	1	1	0	0	28

④ 新規来所面接相談の相談内容の内訳

〔表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳〕

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	0	2	0	0	2	1.8%
性格・行動	45	36	13	0	94	83.2%
進路・適性	1	7	0	0	8	7.1%
身体・神経	6	1	1	0	8	7.1%
その他	0	1	0	0	1	0.8%
合計	52	47	14	0	113	
不登校（再掲）	24	33	7	0	64	56.6%
いじめ絡み（再掲）	2	5	3	0	10	8.8%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は、2007年1月15日より緊急を要する相談にも即応するために休日を含めた24時間電話相談を継続実施している。

① 電話相談件数及びその内容と内訳（午前9時～午後6時）

〔表5-1 電話相談件数及びその内容と内訳〕

	小学生	中学生	高校生	その他	合計
知能・学業	21	19	0	0	40
性格・行動	142	133	27	3	305
進路・適性	25	27	10	1	63
身体・神経	30	6	2	4	42
その他	275	179	48	57	559
合計	493	364	87	65	1,009
不登校（再掲）	48	63	9	0	120
いじめ絡み（再掲）	20	21	4	1	46

② 子ども本人からの電話件数（午前9時～午後6時）

〔表5-2 子ども本人からの電話件数及び内訳〕

	いじめ	友人関係	進路	不登校	その他	合計
小学生	2	6	0	1	7	16
中学生	10	6	0	1	8	25
高校生	2	0	0	1	8	11
その他	0	0	0	0	6	6
合計	14	12	0	3	29	58

③ 24時間電話相談件数

24時間電話相談の夜間（午後6時～午前9時）の時間帯の電話相談件数

〔表5-3 夜間電話相談の相談者別件数〕（平成22年4月～平成23年3月）

	小学生	中学生	高校生	保護者	その他	合計
件数	5	17	6	170	122	320

## 2 研究・研修の状況

### (1) 研究

- ① 学校教育相談研究会議
- ② カウンセラー研究員による研究
- ③ 指導主事研究

### (2) 研修

- ① 教育相談（305～309研修コース）
- ② 教育相談校内研修（502研修コース）
- ③ 不登校対策事例検討会（713研修コース）

### (3) その他

- ① 教育相談宿泊研修
- ② 新規採用教員研修での教育相談研修

## 3 「不登校」家庭訪問相談事業

家庭訪問相談活動状況

家に引きこもりがち那不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。平成16年度からは、3名の家庭訪問相談員で実施している。また、保護者の希望によりメンタルフレンド（学生ボランティア）が同行することもある。

〔表6-1 平成22年度 家庭訪問相談状況〕

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	136	430	51	617
訪問以外回数	18	32	3	53
延べ相談回数	154	462	54	670
メンタルフレンド回数	0	0	0	0

〔表6-2 平成22年度 実施後の状況〕

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	6	20	2	28
学校復帰者数	2	7	2	11
好ましい変化	2	6	0	8

## 4 問題を抱える子ども等の自立支援事業

川崎市では、平成21年度の不登校数が、小学校で174人、中学校では1,091人に上り、依然として大きな課題となっている。特に中学校の出現率は4.05%と全国の数値を大きく上回り、憂慮される状況にある。この背景の一つに中学1年生段階で現れる不登校の急増があり、それに学年が上がるごとに新たな不登校生徒が加わるという現状があることから、この点の軽減・解消をめざした取組（調査研究・支援）を続けている。

中1不登校の未然防止に向けて、中学1年生を対象にした調査研究を進める。研究協力校に対して、次のような調査・活動を行う。

- (1) 中学1年生に対して質問紙による基礎調査（「学校好き調査」）を行い、小学校6年生段階での結果と比較する。
- (2) (1)の結果から、学校への不適応感を増していたり登校意欲の弱くなっていたりしている児童生徒（不登校懸念のある児童生徒）を早期発見する。
- (3) 小中学生にとって気軽に相談のできる「相談員」として、大学院生ボランティアを派遣し、相談活動に当てる。特に①で抽出される不登校懸念のある子どもに対して、積極的にかかわる。



- ④ ①～③を通して得られた情報や知見を各学校に提供し、不登校未然防止に向けた取組を強化する。また、小中連携をさらに推進し、中1不登校を防止するための材料とする。

## 5 ゆうゆう広場の活動状況

川崎市適応指導教室は平成5年9月に開設され、18年目の活動になる。平成7年度に採用された「ゆうゆう広場」という愛称を積極的に使用している。現在「ゆうゆう広場さいわい」「ゆうゆう広場たま」「ゆうゆう広場あさお」「ゆうゆう広場みゆき」「ゆうゆう広場なかはら」の5つの広場を運営している5カ所のゆうゆう広場では教育相談員がそれぞれ5名ずつ配置され活動に当たっている。さらに13名のメンタルフレンドが配置され、週1回の割合で来室し、通級している子どもの活動の援助を行っている。

### (1) 通級状況

〔表7-1 平成22年度 学年別、男女別 通級者数〕

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男子	0	0	0	1	1	2	4	9	26	32	67	71
女子	0	0	0	1	3	1	5	18	28	37	83	88
合計	0	0	0	2	4	3	9	27	54	69	150	159

〔表7-2 平成22年度 行政区別、男女別 通級者数〕

	さいわい			たま			あさお			みゆき			なかはら			合計
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	
川崎	2	1	3	0	0	0	0	0	0	5	7	12	0	0	0	15
幸	6	6	12	1	0	1	0	0	0	5	3	8	0	0	0	21
中原	4	6	10	1	2	3	0	0	0	1	5	6	5	3	8	27
高津	0	0	0	2	5	7	0	0	0	0	0	0	2	4	6	13
宮前	0	1	1	3	5	8	3	3	6	0	0	0	4	5	9	24
多摩	0	1	1	13	11	24	0	3	3	0	1	1	2	4	6	35
麻生	0	0	0	0	1	1	12	10	22	0	0	0	0	1	1	24
合計	12	15	27	20	24	44	15	16	31	11	16	27	13	17	30	159

〔表7-3 平成22年度 復帰者数〕

小学生	中学生	合計
0	17	17

※ ここでいう復帰とは、学校へ通学した状態である。

〔表7-4 中学校3年生の進路状況〕

公立			私立 (サポート校を含む)			専門 学校	就職	フー スクール	未定	合計
全日制	定時制	通信制	全日制	通信制	単位制					
6	14	1	6	25	0	1	1	0	2	56

## (2) 体験活動

ゆうゆう広場全体の取組としてサマーキャンプ、親子ふれあい活動、そのほか広場ごとに講師を招いた各種の体験活動が行われた。

[表8-1 平成22年度 参加児童生徒数]

サマーキャンプ(1泊2日)	10
---------------	----

[表8-2 平成22年度 参加児童生徒数]

春の親子ふれあい活動(5月)	48
秋の親子ふれあい活動(10月)	59

## 6 スクールカウンセラー配置事業

(1) 平成17年度より市内51校の中学校にスクールカウンセラーを継続配置している。

(2) スクールカウンセラー連絡協議会・研修会開催日

①5月11日(火) ②7月8日(木) ③11月24日(水) ④2月25日(金)

(3) 緊急支援のためのスクールカウンセラー派遣回数 8回

[表9 平成22年度 スクールカウンセラーによる年間相談内容別延べ人数]

	不登校	いじめ	友人関係	家族関係	自己性格	学習・進路	非行	発達関係	その他	合計
相談人数	6237	311	1240	1382	1021	797	338	1661	8971	21,958

## 7 学校巡回カウンセラー事業

巡回カウンセラー7名を総合教育センターへ配置し、市立小学校・高等学校への派遣や、市立中学校の緊急的な要請に対して派遣を行った。

[表10 平成22年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教職員	合計
小学校	241	62	51	354
中学校	11	97	0	108
高等学校	33	339	90	462

## 8 不登校対策推進事業「フレンドシップかわさき」

不登校の総合的対策事業として平成16年度より立ち上げられた「フレンドシップかわさき」は、平成17年度に指導課から総合教育センターへ業務移管され継続している。「フレンドシップかわさき」は次の3点について実践研究を進めている。

- (1) 不登校の予防・解決を図るための校内体制づくり
- (2) 小中学校間のよりよい接続等を図るための連携・協力のあり方
- (3) 学校と不登校対策にかかわる施設や関係機関との連携強化による、総合的対策の構築

(1) については小学校15校に「心のかけはし相談員」を配置した。「心のかけはし相談員」と中学校へ配置された「スクールカウンセラー」を活用し、校内の体制づくりを図った。

(2) については ①の7中学校区、小学校16校、中学校7校を小中連携不登校対策研究実践校として措置した。

(3) については不登校対策にかかわる施設や機関の代表61名で、年3回不登校対策連絡協議会を開催した。また教育委員会と民間施設(NPO法人)との協働で不登校のための進路情報説明会を開催した。

## 7 外国語指導助手配置

国際化時代における英語教育の改善・充実と、国際理解教育を推進するため、外国語指導講師(Assistant Language Teacher, ALT)を業務委託して、中学校・高等学校を中心に小学校や特別支援学校やゆうゆう広場に配置している。平成22年度のALTは、小学校に30名、中学校に20名、高等学校に5名の計55名を以下のように配置した。

### 1 校種別訪問の状況

- (1) 高等学校 5名のALTが市立高校5校に専属配置された。
- (2) 中学校 20名の中学校担当ALTが、一人あたり2~4校を分担し、1週間~2週間継続して同一校を訪問し、ローテーションを行った。
- (3) 小学校 30名の小学校担当ALT(うち1名は、中学校と兼任)が一人あたり3~5校を分担し、主に曜日毎に訪問校を割り振り、訪問した。
- (4) ゆうゆう広場 平均すると各広場に毎月一回程度訪問を行った。
- (5) 特別支援学校 希望により、学期に1回程度訪問を行った。

### 2 訪問形態

- (1) 高等学校へは、年間を通じて専任のALTを配置した。
- (2) 中学校は、市内51校を学級数が均等になるようグループ分けをし、各校の話し合いにより、配置予定を決定した。
- (3) 小学校についても中学校と同様に5・6年の学級数が均等になるようグループ分けをし、各校の外国語活動実施曜日に合わせ、配置を行った。
- (4) ゆうゆう広場や特別支援学校は、配置希望日が少ないのでなるべく要望に添えるよう主に中学校の訪問予定を調整し、配置を行った。

### 3 訪問校における活動内容

- (1) 授業内における児童生徒への英語指導。
- (2) 教材作成、指導案作成への協力。
- (3) 学校行事や国際理解を推進するために必要と認められる諸活動への参加。
- (4) 英語に関する行事の審査員など。
- (5) 特に小学校では、英語以外の授業でも国際理解を推進するために活用。

### 4 その他

新学習指導要領では、その目標が小学校から高等学校まで「コミュニケーション能力の育成」という言葉で繋がりを持った。そのための授業改善が求められ、英語母国語(またはそれに準ずる)話者の需要が高まっている。また、新指導要領の移行期間として、川崎市内小学校全校で年平均32時間程度外国語活動が実施され、これらの流れを汲み、今年度のALTの数が昨年度の47名から55名へと増員した。これにより、各学校での英語指導がより充実したものとなった。

## 8 海外帰国・外国人児童生徒

### 1 海外帰国・外国人児童生徒の教育相談

平成22年度のセンターへの来所相談は、138件で、内訳は帰国児童生徒の編入学相談や進路に関する相談などが17件、外国人児童生徒の編入等に関する相談が121件あった。

来所相談以外に、電話や電子メールによる相談を、市外、海外からのものを含めて245件（うちメール相談15件）受け付けた。中には、繰り返し電話相談が必要なケースもあった。帰国児童生徒関係の相談では、メール・電話の相談を充実させることによって、来所しなくても済むケースもあった。

帰国児童生徒の中には、長期に海外に滞在していたために日本の生活習慣になじむのに苦労したり、日本語指導が必要となったりするケースもある。

また、外国人児童生徒の中には、長期間保護者と離れて母国で過ごし、急に来日することになったケースや保護者の留学や研修の都合で来日したケースなどがあり、個々の事情はさまざまである。全体としては、川崎区に多く在籍しており、国籍別では、フィリピン・中国が多い。

これらの児童生徒の指導には、日本語指導等協力者派遣事業や市内日本語教室などが大きな役割を果たしている。

### 2 日本語指導等協力者派遣事業

日本語指導が必要な児童生徒のために、母語を理解できる日本語指導等協力者を派遣し、初歩の日本語指導や適応のための補助的指導をしている。平成22年度の派遣対象児童生徒数は、前年度からの継続者も含めて204名であった。平成21年度と比較すると11名減少した。

登録している日本語指導等協力者は約140名で10ヵ国語に対応している。

### 3 日本語教室

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒が5名以上在籍する学校に日本語教室（国際教室）を設置することができる。通常の学級に在籍をしながら必要に応じて、日本語指導や教科指導を受けることができる教室で少人数の温かい雰囲気があり安心できる場になっている。平成22年度は京町小、川崎小、宮前小、土橋小、川中島中、富士見中、川崎中の7校に設置された。

## 9 **カリキュラムセンター事業**

カリキュラムセンターでは、調査研究や教職員に対する研修、要請訪問、講師派遣、資料の作成・収集及び提供、カリキュラム相談等の各種業務の推進を通して、各学校のカリキュラム開発を支援した。調査研究、研修、外国語指導助手配置、海外帰国・外国人児童生徒事業を除く平成22年度の主な事業の概要は、次のとおりである。

### 1 各教科等に係る指導・支援事業

- (1) 各学校・研究（部）会の要請に応じて、各教科等の指導主事を随時派遣した。（延べ545回）
- (2) 学校の要請に応じて指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を24回実施した。
- (3) 各教科等に係る指導業務並びに関連業務の実施により、各学校の教育課程の編成を支援した。
- (4) 学習評価の考え方及び指導要録記入の手引きを作成し、各学校の学習評価の取組を支援した。

### 2 資料の作成・収集及び提供、カリキュラム相談事業

- (1) 学習指導案等の資料の収集  
ケインズ・サインズネット上の「学習指導案データベース」に、各学校や研究（部）会等から収集した学習指導案やワークシート等の資料を公開している。
- (2) 教育情報サロン（かわさきT's・スクエア）の管理・運営、カリキュラム相談  
学習指導案やカリキュラム開発に係る書籍・研究資料、ICT機器等を整備するとともに、指導主事や教育相談員等によるカリキュラム開発に係る相談を行った。

### 3 喫緊の重要課題対応事業

- (1) 授業力向上支援事業  
研究協力校4校（小学校：2校、中学校：2校）の研究協力校とともに、指導方法の改善や教師の授業力向上に係る実践研究を推進した。授業力こだわりハンドブックの作成を通して、その成果と活用について各学校に発信した。
- (2) 川崎市学習状況調査・学習診断テスト  
小学校5年を対象に学習状況調査、中学校全学年を対象に学習診断テスト（うち2年生には学習意識調査も実施）を実施し、その結果を分析・考察した報告書を作成し、各学校に配付した。

### 4 教育課程事業

- (1) 小・中学校教育課程研究会  
○第1回（授業研究） 6/9(水)、6/11(金)、6/15(火)、6/16(水)、6/18(金)  
○第2回（研究報告・協議） 8/18(水)、8/19(木)
- (2) 高等学校各教科等研究協議会  
各教科等の授業研究や研究協議を2回（6、11月）実施した。
- (3) 小・中学校総則・委託研究  
①小・中学校総則研究資料「新教育課程編成のための資料Ⅲ」を作成し、全教員に配付した。  
②小学校の各教科等の学習指導事例集『『確かな学力』の向上をめざした学習指導の工夫と改善Ⅲ』を作成し、全教員配付した。  
③中学校の各教科等の学習指導事例集『『生きる力』をはぐくむ学習指導の工夫と改善Ⅲ』を作成し、全教員に配付した。

## 5 人権尊重教育事業

- (1) 子どもの権利学習資料を作成し、小1、小5、中1の全児童生徒に配付した。
- (2) 「はたらくひとびと」学習資料を作成し、小1の全児童に配付した。
- (3) 人権教育移動教室を要請のあった学校において開催した。(22年度実績：10回)
- (4) 「ともに生きる」を作成し、全校に配付した。
- (5) 日本語を母語としない中学生への公立高等学校進学説明会(ガイダンス)を開催した。11/13(土)

## 6 学校教育支援事業

- (1) 研究研修講師派遣事業  
特色ある教育課程編成を支援するため、各学校や研究(部)会の要請に応じて大学教授等の専門講師を派遣した。(22年度実績：33回)
- (2) 理科支援員配置事業  
小学校理科教育の活性化と教員の指導力向上を図るため、全校の5・6年生の理科授業に理科支援員を配置した。
- (3) 教育課題研究  
「教育課題研究XⅢ」を作成し、全教職員に配付した。
- (4) 研究推進校事業
  - ①各教科等・教育課題
    - 21・22年度研究推進校 小学校：11校 高校：1校 特別支援学校：1校
    - 22・23年度研究推進校 小学校：9校 中学校：16校
  - ②異校種間連携
    - 22年度カリキュラム開発研究推進校ブロック 小中連携：7ブロック
    - 21・22年度研究推進校ブロック 幼小連携：1ブロック 中高連携：1ブロック  
高大連携：2ブロック
  - ③人権尊重教育 22・23年度研究推進校 小学校1校 中学校1校
- (5) 「輝け☆明日の先生」養成事業  
本市の教員を志望している大学生等や、現在本市の学校に在職している臨時的任用教員や非常勤講師の資質や指導力向上を目指した研修を、「NPO法人教育活動総合サポートセンター」に事業を委託して実施した。

## 7 指導改善研修事業

教科や学級経営に関する専門的な知識や技能が不足し、児童生徒との信頼関係が構築できていない教員を対象に、資質・力量の向上を目指した特別研修を実施した。

## 8 横浜国立大学との連携事業

- (1) 客員教授として月2回派遣している指導主事が、大学において一般教養講座を担当した。
- (2) アドバイザリースタッフ派遣事業・教育実践コンサルテーション事業として教授等の派遣を受けた。
- (3) テレビ会議システムを活用し、当センターにおいて教員免許更新講習(必修の「教育の最新事情に関する事項」)を2回(8月)に実施した。
- (4) 連携講座、教員養成フォーラムの開催等

## 9 その他

### (1) 各種指導事務の実施

- 学籍・指導要録等の公簿管理
- 21 研の実施
- 教科書採択
- 教育実習・サービスラーニング
- 表彰・推薦
- 各種作品展
- 本物の舞台芸術
- 中学校進路指導
- 子どもの音楽活動推進事業
- 読書のまち・かわさき
- 夜間学級の運営

### (2) 国及び県の委託事業の実施

- ①いのちを大切にすゑ教育に関する推進事業（道徳）
- ②中学校夜間学級調査研究事業

## 10 広報及び刊行物等

### 1 川崎市総合教育センター所報

- ・発行：22年7月、12月
- ・発行部数：6,500部（A4版）
- ・主な記事：
  - 第1号「各室の業務と担当者の紹介」  
「平成22年度研究推進校一覧」  
「ゆうゆう広場なかはら新設」
  - 第2号「児童生徒の学習評価の在り方について」  
「学校のICT機器」  
「学校・学級で連携できる人的支援」

### 2 総合教育センター要覧 平成22年度

- ・発行：22年7月
- ・発行部数：700部（A4版）
- ・主な内容：設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構  
事業内容

### 3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
1	事業報告書	6月	A4	50	600
2	ともに生きる ～多文化共生の社会をめざして～	4月	A4	52	1,500
3	はたらくひとびと（職業理解資料）	4月	A4	18	17,000
4	はたらくひとびと活用事例集	4月	A4	32	1,500
5	子どもの権利学習資料 かがやき 小1	10月	A4	8	16,000
6	みんな輝いているかい 小5 （子どもの権利学習資料）	10月	A4	24	16,000
7	みんな輝いているかい指導資料	9月	A4	24	700
8	わたしもあなたも輝いて 中1 （子どもの権利学習資料）	10月	A4	28	11,000
9	わたしもあなたも輝いて指導資料	9月	A4	24	500
10	教育課題研究ⅤⅢ	3月	A4	24	6,100



No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
11	川崎の気象	3月	B 5	50	400
12	小学校 「確かな学力」の向上をめざした 学習指導の工夫と改善Ⅲ	3月	A 4	600	冊子700 CD3,800
13	中学校 「生きる力」をはぐくむ学習指導 の工夫と改善Ⅲ	3月	A 4	各44	総計 8,490
14	小・中学校新教育課程編成のための資料Ⅲ	3月	A 4	104	5,500
15	みんなで学ぼう みんなで語ろう (定時制入学案内)	10月	A 4	8	2,800
16	高等学校の教科領域等の指導において 一層の創意工夫を図るための資料	7月	A 4	87	900
17	川崎市立高等学校教育実践の記録	1月	A 4	80	770
18	夢を育てよう	5月	A 4	4	12,000
19	研究紀要 第23号	5月	A 4	214	400
20	研修案内	4月	A 4	73	300
21	副読本かわさき2010	4月	A 4	190	700
22	Q & A 海外帰国・外国人児童生徒指導の手 引き	3月	A 4	39	250
23	初任者研修の手引き	4月	A 4	64	700
24	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	97	900
25	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	46	900
26	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	A 4	36	600
27	10年経験者研修の手引き	4月	A 4	32	500
28	10年経験者研修 研修ノート	4月	A 4	40	500
29	川崎市小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	101	310
30	川崎市中学校学習診断テスト報告書	2月	A 4	280	200
31	平成22年度中学校理科初任者研修報告書	3月	A 4	16	100
32	平成22年度中学校数学初任者研修報告書	2月	A 4	61	90
33	保健体育学習指導の手引き	3月	A 4	48	350
34	平成22年度川崎市立学校理科支援員配置 事業(報告書)	3月	A 4	117	170
35	小学校における学習評価の考え方及び 指導要録記入の手引き	3月	A 4	35	5,500

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
36	小学校家庭科安全ハンドブック	3月	A 4	35	4,700
37	教育相談宿泊研修実践記録集	3月	A 4	38	300
38	スクールカウンセラー配置事業報告書	3月	A 4	110	135
39	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	3月	A 4	20	300
40	不登校対策事業「フレンドシップかわさき」事業報告	3月	A 4	46	200
41	問題を抱える子ども等の自立支援事業調査研究報告書	3月	A 4	21	200
42	幼児教育センター8年間のあゆみ	6月	A 4	238	400
43	5分でわかる情報モラル教育Q & A	3月	A 4	84	2,000
44	生き生きとした子どもを育てるために (研修用資料)	4月	A 4	37	250

#### 4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

平成22年度 事業報告書

平成23年6月

編集 川崎市総合教育センター

発行 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

E-mail [KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp](mailto:KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp)



KAWASAKI CITY

---

川崎市